

九大広報

Kyushu University Campus Magazine

2011.1
vol. 73

特集 知の世界的拠点大学へ

特別対談

ペトロス・ソフロニス

九州大学カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所(I²CNER)所長
イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校教授

×

倉地 幸徳

理事・副学長



インタビューシリーズ・九大人

松尾 正人

カリフォルニアオフィス所長

ふろんとランナー

比良松 道一

農学研究院 環境農学部 助教

2011
九州大学
100年



KYUSHU UNIVERSITY 100th 2011
知の新世紀を拓く

九大 Kyushu University Campus Magazine 広報

2011.1 vol.73



表紙 PHOTO
今号の特集にちなんで、表紙には、九州大学で学ぶ留学生の皆さんに登場いただきました。寒さが厳しい箱崎キャンパスでの撮影となりましたが、撮影現場は、温かい国際交流の場となりました。

編集発行 九州大学広報専門委員会
事務 九州大学総務部広報室
住所 〒812-8581 福岡市東区箱崎6-10-1
電話 092-642-2106
FAX 092-642-2113
E-mail koho@jimu.kyushu-u.ac.jp
URL http://www.kyushu-u.ac.jp
印刷 株式会社 DNP西日本
編集協力 丸善株式会社
株式会社 千年市場
花元ゆかり(デザイン編集)
福島啓和(カメラ)
入江修(カメラ)
永井直美(取材)

- お読みになってのご感想やご意見をお待ちしています。
- 投稿をお受けします。文字数は、300文字未満。手書きのものも受け付けますが、できればメールでお送りください。可能な限り掲載しますが、本誌の目的や性格に照らして不適当と思われる原稿は掲載しません。
- 本誌記事を転載する場合は、事前に九州大学広報室までご連絡願います。
- 「九大広報」は九州大学 Web サイトでもお読みいただくことができます。
- 次号は、2011年3月発行予定です。

Contents 目次

| | |
|---|----|
| 特集・知の世界的拠点大学へ 特別対談…………… | 3 |
| ペトロス・ソフロニス 「九州大学カーボンニュートラルエネルギー 国際研究所(CO2E) 所長 イリノイ大学アーバナシキャンペーン校教授」 | 7 |
| 倉地 幸徳 「九州大学 理事・副学長」 アジアを代表する世界的研究・教育拠点をめざして…………… | 7 |
| 留学生サポート体制…………… | 9 |
| 留学プログラム…………… | 10 |
| ルンド大学とのダブル・ディグリープログラム…………… | 11 |
| アジア農学教育国際プラットフォーム(PAAE)…………… | 11 |
| EUセンター…………… | 12 |
| 韓国研究センター…………… | 12 |
| グラミンプロジェクト…………… | 13 |
| シリアスゲームプロジェクト…………… | 13 |
| エジプト日本科学技術大学(EJUST)…………… | 14 |
| インタビューシリーズ・九大人…………… | 15 |
| 松尾 正人 「九州大学 カリフォルニアオフィス 所長」…………… | 15 |

| | |
|--|----|
| シリーズ研究・ふろんとランナー…………… | 19 |
| 比良松道一 「農学研究院 環境農学部 助教」 新しき挑戦者たち…………… | 23 |
| 井手 竜也 「比較社会文化学府 修士課程2年」 同窓会だより…………… | 25 |
| 九州大学百周年記念事業特別講座 第二期…………… | 26 |
| 九州大学百周年記念事業〈13〉…………… | 27 |
| TOPICS ■ 循環型社会システム工学研究センター…………… | 30 |
| よこそ九州大学へ…………… | 31 |
| 九大学生が案内する世界のキャンパスジョージア大学(アメリカ)…………… | 32 |
| 躍動・学生たちの活躍——九州大学馬術部…………… | 33 |
| 新聞で報道された九州大学——平成22年10月～11月…………… | 35 |
| TOPICS ■ 家計の困窮が受験生の進学行動に与える影響を調査…………… | 37 |
| 高柳涼一教授が理事・副学長に就任…………… | 38 |
| 九州大学百周年記念行事のご案内…………… | 38 |
| 編集後記…………… | 38 |



九州大学は二〇一一年に百周年を迎えました

九大百周年

「新たな百年に立ち向かう気力を鼓舞する」という想いが込められた「九大百年」。この書は、世界的に活躍する書家の柿沼康二氏に揮毫していただきました。

特集 知の世界的拠点大学へ

九州大学は、グローバル化の進展を早くから見据え、国際化に取り組んできました。
2009年の文部科学省の国際化拠点整備事業(グローバル30)への採択や、2010年の世界トップレベル研究拠点プログラム(WPI)への採択によるカーボンニュートラル・エネルギー国際研究所の設置など、近年、九州大学の国際化は加速しています。
今号の九大広報では、「知の世界的拠点大学へ」と題し、九州大学の国際化の取り組みについて紹介します。

特別対談

文部科学省の「世界トップレベル研究拠点プログラム(WPI)」への採択を受け、平成22年12月、イリノイ大学のペトロス・ソフロニス教授を研究所長に迎えてカーボンニュートラル・エネルギー国際研究所[I²CNER(アイスナー): International Institute for Carbon-Neutral Energy Research]がスタートしました。オープニングセレモニーが行われた翌日、稲盛財団記念館において、倉地幸徳理事・副学長がソフロニス所長にインタビューを行いました。

九州大学理事・副学長

倉地幸徳



I²CNERは基礎科学を通してエネルギー問題の解決を目指す

倉地幸徳 ソフロニス所長、お会いできて光栄です。九州大学の皆が、I²CNERの発足と、先生を所長にお迎えできたことを喜んでいますが、今日はまず最初に、先生のご経歴についてお聞かせください。ギリシャのご出身と伺っていますが、米国に移られたきっかけは何だったのでしょうか。

ペトロス・ソフロニス 子供のころ、アポロ11号のニール・アームストロング船長が人類で初めて月面に降り



Petros Sofronis

九州大学カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所(I²CNER)所長
イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校教授

ここでは、材料と力学についての研究に従事し、1991年にイリノイ大学アーバナ・シャンペーン校に移り、ここで教授となりました。

倉地 私は、1970年にボスドクフェロ1として米国に渡り、結果的に30年以上米国の主要大学で研究を行い、教鞭をとる人生を送りました。10年前につくば市にある国の研究センター所長への就任依頼を受けて帰国しましたが、昨年退職し、春に九州大学に赴任してきました。

ソフロニス お互い、似たような経歴ですね。

倉地 それでは、I²CNERについて伺いたいと思います。まず中・長期的な目標を教えてください。

ソフロニス I²CNERは基礎科学に取り組む研究所です。これは私たちのミッションの一つです。そして基礎科学を通して、環境調和型で持続

立つ様子が、ギリシャでもラジオで生中継されました。子供心に、何かすごいことが起こっているな

と思ったのを覚えています。そのころから米国は私にとって憧れであり、夢のような存在でした。ギリシャ第2の都市であるテッサロニキにあるアリストテレス大学機械工学科在学中に、私は幸運にも、かつて米国のバデュー大学の教員であったG.Janis教授に出会いました。成績が良かったこともあって、ある時は教授と呼ばれ、米国の大学院で勉強を続ける気はないかと尋ねられたのです。「この時を待っていた」とばかりに、私はすぐにその誘いを受け、洋服を詰め込ん

だスーツケース一つと500ドルだけを持って、イリノイ大学に着いたのです。アメリカンドリームを追いかけたんですね。

倉地 それはいつのことですか？

ソフロニス 1981年のことです。イリノイ大学の大学院に入りR.McMeeking教授の下で博士課程の研究を始めました。その後、カリフォルニア大学サンタバーバラ校に移ると、今度は、材料科学の世界的権威であるA.Evans教授のグループで研究をする幸運に恵まれました。

倉地 それでは、I²CNERについて伺いたいと思います。まず中・長期的な目標を教えてください。

可能な社会の実現に向けた課題への解決策を提示し、社会に貢献することを目指します。直近の目標としては、日本、米国、ヨーロッパを含む国際社会に対し、安全な水素社会実現のための国際的な基準を示すことなどがあります。例えば日本の自動車メーカーは、2015年には燃料電池自動車を市場に出したいと考えていますが、そのためには、材料の適切性や強度に関する基準が必要です。その基準を示すことは直近の目標の一つです。

倉地 水素ステーションなど、水素社会の実現には社会インフラも必要だと思いますが。

ソフロニス 水素は造り出すとともに、これを家庭などへ供給しなければなりません。輸送のシステムが必要なのです。日本も米国のエネルギー省もこのシステムに取り組んでいます。伊都キャンパスにある(独)産業技術総合研究所のHYDROGENUS(水素材料先端科学研究センター)では、水素を輸送するためのインフラの材料について研究しています。将来、家庭では天然ガスの代わりに水素を使うようになるでしょう。インフラには大きな投資が必要ですが、将来のためには必要な投資

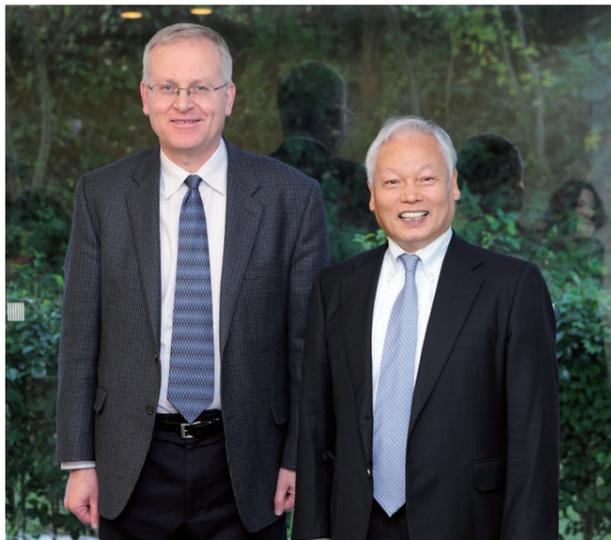


IFCNERオープニングセレモニーにて

同研究はありますが、そのときも立場は対等です。
倉地 文部科学省へのWPIの申請の際、このプログラムをきっかけとして日本の大学の教育・研究風土を改革すると訴えてこられました。IFCNERをどうやって運営していくとお考えですか。
ソフロニス ここでは特に二つのことを申し上げたいと思います。まず、IFCNERは、常に最高の研究品

質を維持するよう努めます。そのためには、毎年、外部アドバイザー委員会の厳しいチェックを受けることとします。各方面の、国際的に権威のある方々から成る委員会です。この方々に来ていただき、私たちのパフォーマンスをチェックしていただきます。もう一つは、学生がプレゼンを行うセミナーを日常的に採り入れます。これも米国ではごく当たり前に行われていることです。大学院生が、他の学生や教授の前で、自分の研究についてプレゼンを行うのです。プレゼンをする学生とそれに質問する学生。これによりディベートの文化が育つでしょう。学生達には、私たちに挑んできてほしいと思っています。自由な発想を育んでほしいのです。なぜなら、彼らは次の世代を担う研究者だからです。「ディベート」。これが、これまで私が九大の学生を見てきて不足していると感じるものであり、これからのキーワードの一つになると思っています。
倉地 IFCNERの運営には、ソフロニス所長に大幅な裁量を与えられています。それがきっかけとなり、九大の他の部門にも良い刺激を与えることとなることを望んでいます。

IFCNERの研究者達へのインセンティブとして、どのようなことが考えられますか。
ソフロニス 研究者に対する研究費や報酬の配分は重要なポイントの一つだと思います。まずは研究リソースについてです。研究リソースはPI(Principal Investigators): 主任研究者(全員に平等に配分されるわけではありません。皆に平等に与えられるほど十分なリソースはないのです。もう一つは給与です。研究者の給与も、研究所の活動や貢献の度合いに見合ったものになるでしょう。一律の体系とはいたしません。
倉地 そのためには、研究成果の評価は、相当厳しい基準に基づいて行われなければなりませんね。そうでなければ、大きな資金が無駄になってしまいます。
ソフロニス そうなると大問題ですね。アカデミック界に自己満足や停滞を引き起こすかもしれません。我々は停滞を望みません。我々が望むのは活力です。それが本研究所の目的です。



倉地 その通りだと思います。IFCNERは、日米両政府、そして産業界からも支援を受けています。きっと成功すると信じています。エネルギー問題の解決に向けて、研究所の成功をお祈りしています。
ソフロニス ありがとうございます。これから世界中を回り、九大の伊都キャンパスのIFCNERで新たなことが始まると宣伝していきま。この研究所が、学術面、そして社会に対する貢献という両方の面で成功するよう最大限の努力をいたします。
このインタビューは、平成22年12月9日に行われました。

なのです。もう一つ重要なことは、水素に関する市民の理解を高め、信頼を得ることです。米国のエネルギー省はこのための充実した社会教育プログラムを用意しています。ここIFCNERでも、社会に対してわかりやすい言葉で説明を行っていくつもりです。それから水素の製造と利用もさることながら、地球温暖化という大きな問題への対処としては、やはり二酸化炭素の排出削減の問題にも取り組まなければなりません。IFCNERで我々が取り組む課題です。

よか。それはHYDROGENIUSの存在です。HYDROGENIUSでは世界トップレベルの研究が行われており、それはシニア研究者を惹きつけるものです。研究環境は重要な要素です。私たちシニアの研究者は、優れた研究者がいて、目的に向かって真剣な研究を行っているグループに参加したいと思うものなのです。もう一つ、九大とイリノイ大学との連携についても強調しておきたいと思います。ご存知のように、イリノイ大学には世界トップレベルの工学系の



学部があります。これからは、夏季休暇やサバティカルリブ(長期有給休暇)を利用して、多くのシニア研究者が九大にやって来るでしょう。九大とイリノイ大学の研究者が共同で研究できる環境づくりが始まるのです。そして、こうした取り組みは、数々のワークショップや共同刊行物を通じて世界に発信されることとなります。
倉地 研究環境について言えば、日本と米国の大学における大きな違いは何だと思われますか？
ソフロニス 日本では准教授から若い助教まで、教授が率いるグループ内で「教授のために」研究する様子が時折見られますが、このようなことは米国では見られません。

る研究所や学部をこれまでとは違った方向にまで導く可能性がある、新しい力なのです。IFCNERでも、若い研究者をどのように位置づけたいと思います。
学生達は次の世代を担う研究者
倉地 若手の研究者にも、独自の研究を行えるようなスペースを与えるということもその一つですか。
ソフロニス その通りです。若手研究者は独自の研究を行うとともに、将来のビジョンを持つていなければいけません。私がこれまで九大で出会った若い研究者の中には、研究についての5年後のビジョンを言えない人が何人かいました。大変ショッキングなことでした。というのは、米国の大学では5年後のビジョンがない研究者は採用されませんから。

倉地 そういった傾向は、以前は顕著に見られました。まず教授がいて、准教授がいて、助教がいて、それがピラミッドのような構造になっていました。近年ではかなり様子が変わってきて、もっと柔軟な構造にはなってきましたが…。
ソフロニス IFCNERでは、そのようなやり方は避け、米国流のアカデミックカルチャーを採用します。米国では、研究者は将来性を買われて雇われます。教授の研究を手助けするための存在ではありません。所属す

倉地 同感です。私も研究者人生の半分を米国で過ごし教授になりました。すべて自分でやらなくてはなりませんでしたが、自分が真にやりたい研究を行うことができました。
ソフロニス 教授は若手研究者の手本であり、指導者です。教授は若手研究者が立ち立ちできるような指導し、サポートします。もちろん、共



(上)タイでの高校訪問の様子
(下)シンガポールでの留学フェア

外国人留学生や研究者が安心して日本に来日し、九州大学で勉強や研究ができるよう、来日の手続きや生活面でのサポートを一元的に行うため、平成21年7月に「外国人留学生・研究者サポ

留学生支援体制の整備・強化

九州大学では、これまでも海外における本学の活動の拠点となる

海外オフィスの整備

課程国際コースでは、これら受入重点国の高校等を中心にプロモーションを行っています。
平成21年度には10カ国・地域に延べ32名を派遣し、25以上の高校の学生や保護者約2,700名を対象にプロモーションを行いました。
また、平成22年度は、これまでに9か国・地域の33校で留学説明会を実施し、2,200名近くの学生等が参加しています。

現地オフィスを整備してきましたが、平成21年度には、グローバル30における活動の拠点として、新たに4か所の海外オフィスを整備しました。これら海外オフィスを活用して、優秀な留学生を多く受け入れるための活動を行うこととしています。
なお、平成22年2月に開設したカイロオフィス(エジプト)は、グローバル30の実施に伴い、日本の大学全体の留学生受け入れを促進することを目的とした「海外大学共同利用事務所」としての役割も有しています。

九州大学の国際化の今後

現在、九州大学のグローバル30は順調に進捗しており、その成果を着実にあげています。留学生数も平成22年11月現在、約2,000名にまで増加しており、平成25年度末までに2,300名という目標も十分達成できる見通しとなっています。

今後も、さらに九州大学の国

国際化を推進していくことはもとより、グローバル30拠点大学をはじめとする他大学と協力して、産業界と連携した留学生の就職支援への取組や、グローバル30で培ったノウハウや成果を国内の他の大学に波及させるような取組を行っていきたく考えています。
※グローバル30は、平成21年度に「国際化拠点整備事業」として開始されましたが、平成23年度から「大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業」として継続されます。

G30対応のため新たに4か所の海外オフィスを設置



キャンパスの国際化

九州大学では、グローバル30を円滑に実施するため、全学の教職員や学生が一体となって国際化を推進するための仕組みや体制を構築しています。

また、学内文書等の英文化とともに、国際コースでの英語による授業を担当する外国人教員を積極的に採用し、その英語による教授法を日本人教員にも波及させるための取組や事務職員の英語スキルを向上させるための取組なども行っています。

トセンター」を設置しました。(詳細は9ページ)

アジアを代表する世界的研究・教育拠点をめざして

グローバル30での取組

九州大学の取組

九州大学が実施するグローバル30事業は、留学生の募集から企業等への就職までの一貫した国際化拠点整備を全学が一体となって推進し、アジアを代表する世界的研究・教育拠点大学としての機能を強化することを目指しています。
具体的には、次のような取組を行うことにより、平成20年に約1,300名だった留学生を、グローバル30が終了する平成25年度末には2,300名、さらに、平成32年度末には3倍の3,900名にするという目標を立てています。平成22年11月現在で留学生数は、すでに約2,000名にのぼっています。

グローバル30は、質の高い教育と、海外の学生が日本に留学しやすい環境を提供する拠点大学を文部科学省が支援する事業で、日本の大学の国際競争力の強化や留学生に魅力的な教育の提供、また、留学生と切磋琢磨する環境の中で国際的に活躍できる高度な日本人の人材を養成することを目的としています。平成21年度に九州大学をはじめ全国で13大学が採択されています。

国際コースの設置

グローバル30では、優秀な留学生が日本の大学を目指しやすいよう、英語による授業のみで学位が取得できるコース(国際コース)を設置することになっています。



学士課程国際コース第1期入学式

九州大学では、学士課程では工学部と農学部2学部、大学院課程ではすべての大学院(17学府)に国際コースを開設することとしています(既存のコースを含め全63コースは全国最多)。
平成23年1月現在、33コースを開設しており、平成22年度には、学士課程に25名、大学院課程に156名が入学しています。

海外プロモーションを実施

優秀な留学生を多く受け入れるため、九州大学では、中国、韓国、インドネシア、台湾、ベトナム、エジプト、タイ、オーストラリアの8か国・地域を留学生受入重点国として設定しています。とりわけ、九州大学で初めて開設される学士

きめ細やかな留学生サポート体制

—— 留学生の受け入れ、生活をサポート ——

外国人留学生・研究者 サポートセンター

第二期中期目標・中期計画において、留学生受入れ数及び外国人教員等数の増加を掲げたこと、またグローバル30への採択により、今後、留学生と外国人教員等の大幅な増加が見込まれます。

本学では、留学生及び外国人教員等の生活を支援する「九州大学外国人留学生・研究者サポートセンター」(以下、サポートセンター)を設置し、留学生や外国人研究者へのきめ細かなサポートを展開しています。サポートセンターでは来日時の各種支援業務として、「ビザに関する手続き」「シャトルバスサービス」「住居の手配」を包括的にサポートしています。渡日後の各種オリエンテーションの実施のほかにも、外国人

登録や、銀行口座開設等当面の生活立ち上げに必要な手続きを支援しています。

また、各キャンパスに窓口を設置し、各種相談を受ける等、日常的な生活支援を主としたサービスを行っています。



平成22年10月の空港出迎いの様子。約350名の留学生を、各々の宿舎へ入居させました。

留学生寮

本学には、留学生用の宿舎が香椎



日本人学生と留学生が入る 伊都ドミトリー1,2

る大学寮は、初めて日本での勉学や研究を始めようとする留学生にとって、なくてはならないものです。

奨学金

九州大学の留学生約2,000名のうち、約400名が日本政府の国費奨学金を受けており、約40名が外国政府の奨学金によって派遣されてきています。また、約350名が民間財団や県や市など自治体のほか九州大学独自の奨学金を受けています。半数以上の留学生は私費によって九州大学で学んでいます。が、アルバイトに費やすことのできる時間も限られており、奨学金の確保は、今後優秀な留学生を受入れるために改善していくべき課題の一つです。

ユニークな留学プログラム

—— 世界140大学・機関と大学間交流協定 ——

Asia in Today's World (ATW)

ATWは、6月下旬から8月上旬まで開講するサマープログラムです。毎年、アジア、北米、ヨーロッパなどから約50名の留学生が参加し、これまで10回のプログラムにおいて、世界15カ国71大学から約400名の留学生が参加しています。

ATWでは、日本語コースと英語で授業を行うアジア研究コースを設けており、学生はその専攻分野と興味に応じて履修科目を選択することができます。英語で授業を行うアジア研究コースの授業は、全学教育科目として開放してお



ATW2011

り、日本人学生の受講も可能です。また、ATWには、日本人学生センターやホームステイプログラムなどの制度もあり、日本人との交流も積極的に行えます。

ASEAN in Today's World (ASTW)

ASTWはASEAN諸国の有力大学と共同で現地の大学において実施する、春期2週間のプログラムです。毎回、ASEANと日中韓、及び欧州から約50名の参加者を受け入れ、参加学生は日本語、ASEAN諸国の言語、中国語などの言語から1科目、ASEAN事情、食の安全、異文化理解、他の科目を1科目選択します。

第1回ASTWでSurin Pitswam-ASEAN事務総長による基調講演を開催し、その後もASEAN事務局からゲストスピーカーを招いて特別講演を行っています。2009年には、ASTWに学生を派遣した大学の学長・副学長が集った第1回ASTW



AsTW2011

学長ラウンドテーブルを開催し、ASEAN事務局からも高い関心が寄せられました。

2012年はフィリピンのアテネオ・デ・マニラ大学で開催する予定です。

Japan in Today's World (JTW)

JTWは10ヶ月にわたって開講される英語による短期留学プログラムで、毎年、北米、ヨーロッパ、アジアなどから約45名の留学生が参加しています。

参加学生は主に本学と学生交流協

定を締結した海外の有名大学に在籍する学部生で、日本に関する様々な講義を英語で学びつつ(九大生の受講も可)日本語の授業も受講することができます。

JTWには他にも、指導教員の下で論文作成や研究を行う自主研究/ラボラトリー研究、稲刈りや座禅体験を行う見学旅行など、広く日本について学べる機会が準備されています。

また、九大生のチューターや日本語会話パートナー、日本の家庭に日帰り訪問するホームビジットを通して、九大生や地域の方々とも交流できるのが大きな特色です。



授業風景「日本の文化形態について」

国際派エンジニアの育成へ

ルンド大学(スウェーデン)との ダブル・ディグリープログラム

工学府では、世界で通用する国際派エンジニアを育てることを目的として、スウェーデンのルンド大学と修士課程のダブル・ディグリープログラム(DDP)を実施しています。ルンド大学は1666年に創立したスウェーデンの名門校であり、特に理工学系や医学系が強い総合大学です。同大学とは1993年に九大工学部・工学府と部局間交流協定を締結後、水資源工学分野を中心として研究者や学生の交流を積極的に行っており、約1年前にDDPに関する協定を締結しました。

このDDPは3年間を基本的な修学期間としていて、両大学の必要単位数を満たし、修士論文を完成させることで、ルンド大と九大の両方の修士号を取得します。



伝統ある建物が並ぶ趣あるキャンパス

昨年、九大工学府の学生1名がDDPに合格し、既にルンド大学に留学中です。また、ルンド大学から九大への留学生については、現在受け入れの準備を進めているところ。異文化を理解し、国際的な視点を持った学生の国内外における雇用の価値は次第に高くなっています。ヨーロッパでは企業のトップとなるには、ダブル・ディグリーを持つているのが当たり前になるとの予測もあり、トップ大学間でのDDPが急速に拡大しています。

国際農業開発教育拠点構築を目指して

アジア農学教育国際プラットフォーム (IPAAE)

生物資源環境科学府ではアジアの農学をテーマに、英語を共通言語として大学院修士課程教育を行う「国際共同プラットフォーム(IPAAE)」を設立し、国際農業開発教育の拠点づくりを行っています。この事業は平成20年より開始され、九州大学の他、東京農工大学、神戸大学、ホーエンハイム大学、カセサート大学、チェンマイ大学が参加し、日・独・タイ3か国6大学が連携して、英語による大学院教育を行ってきました。これまで以下の試みを実施しました。



(上) リレー講義風景【複数大学へ同時配信】
(下) ベトナムで行われたフィールド実習

■ リレー講義
一つの科目について連携大学で教員が分担して講義し、教員の国際流動を促進しています。

■ オンデマンド教材
IPAAE e-learningポータルサイト
(<http://133.5.203.17/pearl/>)

■ 遠隔講義
遠隔講義システムを設置し、各連携大学を繋いだリアルタイム講義を行いました。

■ 共同フィールド実習
例えば昨年3月にはホーエンハイム大学のベトナムでの実習に他の5大学の学生が参加し、アジア農業の現場を学びました。

EU研究の世界的ネットワークを九大に

EUセンター

九州大学EUセンターは、本学の学生及び教職員がEU(欧州連合)に対する知識と理解を深めることや、EUの学術拠点であるEUIJ九州(EU Institute in Japan, Kyushu)の活動を支援することを目的として、平成22年12月に設立されました。

EUIJ九州は、九州大学、西南学院大学、及び福岡女子大学の3大学からなるコンソーシアムによる組織で、教育、研究、アウトリーチ分野の活動を展開します。教育活動の中心は、3大学の学部生と修士課程の学生を対象に開講さ



れる『EU研究ディプロマプログラム(EUDPs)』です。このプログラムに登録し、所定の単位を取得することで、EU研究ディプロマ(修了証書)が取得できます。その他、EU域内の大学への留学奨学金の提供、EU研究サマーコースも実施しています。また、研究とアウトリーチでは、EU関連の講演会やシンポジウムを開催するなど、九州地域の研究者・学生にとどまらず、幅広い分野の方々に、EUへの理解を促進するための活動を行っています。同様の組織は、EUからの資金提供を受けて世界に27か所、そのうち日本には4か所が設置されており、グローバルなネットワークによる活動の展開が期待できます。アジアにおいても地域統合が様々な場面で議論されるようになってきており、地域統合の先駆的組織であるEUをより深く知ることは、アジアを、ひいては日本を再考することでもあります。EUセンターはそのような活動を支援していきます。

アジア重視の「知の世界的拠点大学」へ

韓国研究センター



(上) センター外観【箱崎キャンパス】
(下) センター設立10周年記念行事の様子

九州大学韓国研究センターは、平成10年の金鍾泌(キム・ジョンピル)大韓民国国務総理(当時)の来学をきっかけに、国公立大学初の韓国研究施設として、平成11年に創設されました。

本センターは、「日韓地域連携の形成」を目標に掲げ、平成18年には世界の韓国研究をリードするハーバード大学、UCCLAなど、12の大学と連携してコンソーシアムを組織しました。ここでは、優秀な研究者との「知的対話」を通して、次世代の韓国学研究者の育成を図るとともに、様々な優れた研究成果を生み出してきました。

また、平成18年に結成された福岡・釜山フォーラムに当初から参画し、日韓相互の地域連携を促進する数多くの提言を行うなど、国境を越えた産官学連携を推進してきました。

現在、[CAMPUS Asia]構想を見据えた釜山大学と共同による教育プログラム「日韓海峡圏カレッジ」の準備を進めています。これは、双方の得意分野での講義、共通科目や合同ゼミに加え、相手の最先端産業やNPO等でのキャリア教育も盛り込み、アジアで活躍できる人材の育成に取り組むもので、平成24年度開設を目指しています。歴史的にも地理的にもアジアに近く、アジアとの連携を強化してきた九州大学の研究機関として、今後、日韓を基軸とした東アジアの新しい地域秩序の形成に向け、さらなる日韓の地域連携の形成に取り組んでいきます。

九州大学は先進国との共同研究や交流事業とともに、アジアやアフリカなどの中進国及び開発途上国のための国際協力にも積極的に取り組んでいます。

その中の代表的なプロジェクトの一つが日本とエジプト両国政府の国家的事業として進んでいるエジプト日本科学技術大学 (E-JUST) プロジェクトです。研究室において実践的な研究・教育指導を中心に行う日本型の工学教育の特徴は海外でも評価され、これらの普及は今後の大学における国際協力のモデルになります。九州大学は、日本国内の12大学で構成される国内支援大学の中核大学として、電子通信工学の分野でE-JUSTへ教員を派遣し講義及び研究指導を行い、また、熱心でポテンシャルの高いE-JUSTの学生を留学生として受け入れ、エジプトの次世代を担う若手研究者の育成を行っています。これらは、日本型の教育を受けた教員がE-



E-JUST 仮校舎であるムバラクシティー研究所

JUSTで教育を行い、その指導を受けた学生が日本へ留学するという循環的な国際連携教育への効果が期待されています。

また、平成22年8月には、九州大学日本エジプト科学技術連携センター (E-JUST 連携センター) を設置し、本プロジェクトを強力に推進する中心的な役割を果たしています。

本プロジェクトの成功は、中東・アフリカ地域への教育支援のモデルケースとなり、人材育成を通じた将来の中東・アフリカ地域の産業育成、経済発展にもつながるものと期待されています。

E-JUSTで学生とのディスカッション



電子通信工学専攻でのディスカッション



学生のプレゼンの様子



日本とエジプトの架け橋となる優秀な学生たち

TOPICS

平成22年10月、システム情報科学研究院の古川浩教授、E-JUST 連携センターの牟田修准教授が電子通信工学専攻の支援のためE-JUSTを訪問し研究分野における最近の動向についてレクチャーを行いました。

した。また、E-JUSTの修士・博士の学生一人一人が自身の研究の進捗についてプレゼンを行い、そのプレゼンを基にしたディスカッションを2日間かけて実施しました。今後は、このような意見交換を定期的に行うため、毎月1度のテレビ会議システムを利用した共同セミナーを定期的に開催することになりました。

グラミンプロジェクト



2010年11月4-5日グローバル・ソーシャル・ビジネスサミット(独ヴォルフスブルグ)に参加し、GCL@九大、GTLの活動をPR。

九州大学は2007年7月ムハマド・ユヌス氏(九州大学名誉教授、2006年ノーベル平和賞受賞、グラミン銀行設立者/総裁)が代表をつとめるグラミン・ファミリーと交流協定締結後、2010年3月には、ソーシャル・ビジネスの教育、研究、普及を行う「グラミン・クリエイティブ・ラボ@九州大学(GCL@九大)」を設立しました。また、2010年12月には、発展途上国のニーズに合わせたプロジェクト・インキュベーションを行い現地の社会問題の解決を目指す「一般財団法人

グラミン・テクノロジーズラボ(GTL)」が設立されました。GCL@九大では、現在、定期的なワークショップを行いソーシャル・ビジネスのインキュベーションを進めています。

このように九州大学は、ソーシャル・ビジネスの教育、研究、普及を通して、世界の貧困問題の解決に貢献してまいります。



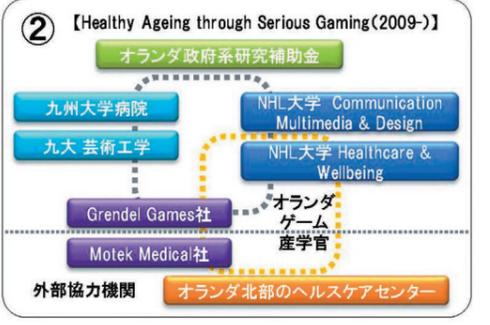
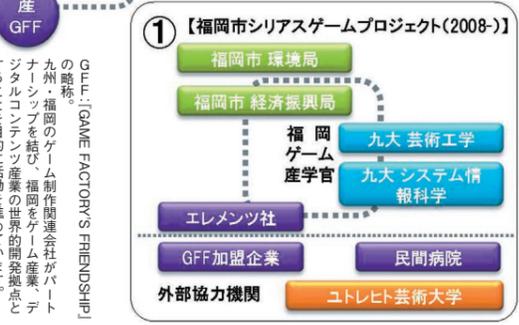
2010年11月18日国連本部にて、UNAI発足総会に参加(前列左から2人目が安浦理事・副学長)

九州大学が先導する日本のソーシャル・ビジネス

産官学連携プロジェクト

シリアスゲームプロジェクト

芸術工学研究院を中心に産官学連携体制で開発が進むシリアスゲーム(社会的問題の解決、実用目的に開発されるゲーム)プロジェクトは、地元・福岡の産(福岡のゲーム企業)官(福岡市等自治体)学(九州大学)連携からオランダ、韓国などを含むグローバル展開が進みました。平成22年度は、医療・福祉分野と芸術工学との学際的な連携によるリハビリを目的としたシリアスゲーム制作の2つのプロジェクト(福岡、オランダ・レーワルデン)に参画しています。高齢化社会におけるひとつの問題解決策としてシリアスゲームが期待されています。



九州大学カリフォルニアオフィス所長

松尾 正人

まつお まさと

“九大学生を 元気付けたい”



グローバル化の時代を迎え、九州大学の国際化を目指して、2004年に開設された九州大学カリフォルニアオフィス。ここでは、できるだけ多くの九大学生が日本国外に出て、考え方の違いに触れるため、シリコンバレー研修、英語研修、遠隔授業など、様々なプロジェクトを推進しています。今回は、その松尾所長に、オフィスとしての取り組み、そしてこれから九大学生が目指すべきことなどについてお伺いしました。

聞き手

水江 朱里 (広報室)



松尾正人所長プロフィール

- 昭和三十八年三月 九州大学大学院工学研究科修士課程修了
 - 昭和三十九年四月 九州大学大学院工学研究科博士課程単位取得修了
 - 昭和四十二年(株)入社
 - 昭和四十四年七月 九州大学より博士号授与
 - 昭和四十四年八月 日本ゼオン(株)を退職、
 - 昭和四十六年八月 米国ヘルツレフオン研究所研究員 復職。日本ゼオン・アメリカ社(ニューヨーク)配属
 - 平成五年 七月 帰国。日本ゼオン(株)事業企画部長
 - 平成七年 七月 同社取締役研究開発本部長
 - 平成十一年 七月 同社顧問、米国シリコンバレーへ派遣
 - 平成十四年 四月 九州大学総長諮問会議(現・総長アドバイザー)会議委員
 - 平成十六年 四月 九州大学カリフォルニアオフィス所長
- ほかボランテア活動・サントカ市にある日本庭園「箱根ガーデン」を管理する箱根財団理事長、日本の大学拠点連絡協議会(JUNBA)会長、シリコンバレー日本人勉強会SVIF副会長

常識という型にはまった ボックスから飛び出してほしい

カリフォルニアを拠点に、 様々な活動を推進

—九州大学のカリフォルニアオフィスの活動についてお聞かせいただけますか。

松尾 私は30年余り、化学会社の駐在員として、ずっと日本から来る出張者の面倒を見てきました。その経験から、日本の若い人たちにぜひ身に付けてもらいたい能力・素養が見えてきました。一つは言うまでもなく、英語能力です。二つ目は自分で考えて行動する自立性・積極性。日本人は、大学に入学した後は、自分で何をしたいかを決める機会がなまじいまま就職していくように、対して、アメリカの学生は、入学時に学科さえ決まっていなくてもよく、



九州大学カリフォルニアオフィス(サンノゼ市)

様々な科目を自分で選びながら、進路を決めます。その課程で自立心や積極性を養い大人になっていくように見えます。三つ目は、異文化理解力。単一民族の日本人は、異なる文化や人を理解するのは苦手です。そのほか、日本人であるのに、日本のことをあまり知らないこと、祖国愛が乏しいこと、ビジネス感覚やリーダーシップ意識が十分ではないことなどが挙げられます。

カリフォルニアオフィスでは、このような今の日本の若者に足りない能力や素養を強化するプログラムを企画し実行しています。現在、推進しているプロジェクトは大きく3つ。遠隔授業、英語研修、そしてシリコンバレー研修(QREP)です。

合言葉は「迷ったらGOO」 チャレンジすることが大事

—遠隔授業は、どのようなことをされているのですか。

松尾 前期が「九大学生よビジネスを学ぼう」でそれぞれの分野の専門家に会社での仕事内容やビジネス感覚について語ってもらい、後期は「九大学生よりリーダーになろう」というテーマで、色々な立場の方にリーダーシップ論を語ってもらっています。シリコンバレーからインターネットを使った講義ですが、過去4年間で約600名の学生が受講しました。

—英語研修はどのような研修ですか。

松尾 一般学生用のシリコンバレー英語研修(SVEP)と、若手研究者用の英語研修(YREP)を実施しています。いずれも、サンノゼ州立大学で4週間、全員ホームステイをすることが特徴です。英語でネゴシエーションしないと食べたいものも食べられないという環境を作ります。しかも、英語だけではな



50人集まった福岡でのSVEP同窓会にて



Oracle訪問のQREP学生

く、初めて外から日本や自分を見る機会に置かれるので、周りをよく見て考えるよう指導しています。そんな生活を通して、学生は様々なことに気づき、学び、経験し、考え、大きく変化していくようです。

—研究者向けのYREPはどのような授業をされているのですか。

松尾 YREPは、博士課程の大学院生を対象にしている特別なプログラムです。国際学会でのプレゼンテ



— ションのスキルアップを目的にしています。このため、スタンフォードやバークレー等の研究者を相手に発表や討論の訓練も行います。研修が終わると、どの学生も程度の差はありますが達成感と自信をつけて帰るようです。



九大応用化学高柳研究室にて

— QREPというのは、短期集中型の研修ですね。

松尾 はい。これは、知的財産本部と当オフィスが共同で進めている研修なんです。卒業生のロバート・ファンさんからの寄付を契機に始めたものです。シリコンバレー在住のリーダー、留学生、ビジネスマンなどに講師をお願いする一週間の集中プログラムです。3日間が講義、2日間は現地の企業や大学等を訪問します。たった1週間ですが、学生は大きな影響を受けるようです。

— 確かに、参加した学生は元気に帰って帰ってきている気がします。

松尾 そうなんです。それはQREPの合言葉「迷ったらGO」を実践しているからでしょう。迷ったらやってみる。ダメだったらやめて方向を変える、ということですよ。

QREPだけではなく、英語研修や遠隔授業を受けた学生もそれぞれに活性化されています。留学する人も多く、留学生のチューターを始めたり、日経新聞を読み始めたり、英会話を始めるなど、新しいことにチャレンジしています。こういう反応を見るととても嬉しく、学生たちの将来が楽しみになります。

研究を通して、ゼロから何かを掴む自信を得た。

— ところで、松尾所長ご自身のこととお聞きしたいのですが、どのような経緯でアメリカでお仕事をされるようになったのですか。

専門知識だけでなく、幅広い知識と経験が必要。

— その後、一時日本に戻られていますよね。

松尾 ええ。50歳代後半で、日本に戻って来いと当時の中野克彦社長に言われまして、6年間、日本で仕事をしました。そのうちの4年間は、研究開発本部長という立場で研究の陣頭指揮を執り、大変良い経験をさせてもらいました。また、その時、企業側の立場で初めて九大生を見ることになりました。当時の九大生は、技術的にとても良いものを持っていました。人付き合いは決して良いとは言えなかった。技術のことしか考えてないから他の部門では使

松尾 私は、子どもの頃からアメリカに行きたいと思っていました。しかし、当時の一般家庭ではアメリカに行くなんて考えも出来ない時代でした。大学では技術力を身に付けたいと思って九州大学工学部に入学し、ポリマー物性の高柳素夫先生の研究室に入りました。ここは全てのポリマーを一つの考え方で整理しようとする先進的な研究室で、高柳先生ご自身も世界に飛躍しようとしている時代でしたから、とても活性的な高柳先生でした。そのまま博士課程まで進んだのですが、ある時、いつの間にか小さなことばかり議論している自分に気付いたんです。これが同じ研究室の佐伯康治先輩がいつも言っていた「タコ壺」じゃないかと思いました。何年も同じテーマで研究を続けていると、どうしても狭いところに入ります。これは良くないと思いつつ入ろうと決断しました。これまでに培ってきたポリマーの知識を持つ

て、現場の問題を解決したいと思っただけです。それで数社の企業を訪問しましたが、その中で真剣に話を聞いてくれたのが、日本ゼオンでした。企業には問題がいっぱいあります。でも、忙しくて解決できていない積み残しがあるんです。見方を変えれば、企業は新テーマの宝庫なんです。私は日本ゼオンで、2つも世界レベルの発見をして、それをきっかけに、九州大学から博士号を頂きました。さらには当時、世界最高の研究所といわれるアメリカのベル研究所から招聘を受け、念願のアメリカ行きチャンスを手に入れたんです。私は、ただ「タコ壺」から出て現場の問題に取り組みたいと思っただけだったんですが、その発想が良かったこと、やはり幸運でした。

— ニューヨークでは、どのような仕事に取り組まれたのですか。

松尾 当時、ゼオンにDCPD(ジシクロペンタジエン)が10万トンも

えないのではないかと心配しました。そんな人を、アメリカではI(アイ)人間と呼びます。でも、今、必要とされているのは、縦の軸となる専門的な知識と共に横の軸となる幅広い知識や経験を持ったT(ティ)人間なんです。

— 九州大学の総長アドバイザー会議委員や、カリフォルニアオフィスの所長を引き受けられたのは、その後、アメリカに戻られたことですか。

松尾 そうです。梶山千里前総長から頼まれました。彼は研究室の後輩で毎日一緒に研究した仲間です。話が来た時、これはグッドチャンスだ、九大の学生に私がこれまで思っていたことを伝えようと思いましたが、それで、様々なプロジェクトを始めた訳です。

競争相手は世界にいる。隣にいる日本人ではない。

— 最後に九州大学の学生にメッセージをお願いします。

松尾 私に言わせると日本全体がボックスに入っているように見えます。まず、九大とか日本とかい

ボックスから飛び出すことを考えてほしい。英語のスキルは、絶対必要です。日本の企業はほとんど世界に進出しています。これからは、英語ができないでは通りません。あなたの競争相手はもはや隣にいる日本人ではなく世界のどこかにいることを知ってほしいですね。それから、起こった事象に対して、自分の意見をしっかりと持ち、それを表現できる見識を持つことです。誰かが言ったことではなく、自分の頭で考えた、自分の意見を持つてほしいのです。

最後にありますが、人との出会いを大事にしてほしいと思います。私の人生は話の中で名前を挙げた方々と出会わなければ、全く違うものになっていってしまう。この機会に心からお礼を申し上げます。

九州大学では学生の皆様が海外で学べるプログラムを多数用意しています。詳細については、九大生のための留学情報Webページをご覧ください。
<http://www.isc.kyushu-u.ac.jp/intlweb/study/index.htm>



伊都キャンパスで開講している少人数セミナー「いのちの授業」では「弁当の日」に学生たちが手づくりの一品を持ち寄り、様々な思いを分かち合う。

大学のほうができるのかもしれないと思っていました。そこへタイミング良く、九大からの誘いもあり、大学に戻ることにしたんです。

子どもたちの生きる力を育む「弁当の日」との出会い

石川 教育にも興味をお持ちになっていたのですか？

比良松 いいえ、最初は教育より研究に興味がありました。教育に興味を持ったきっかけは4年前。研究室の女子学生が、弁当を作ってくれて一緒に食べようと誘ってくれたんです。それは「弁当の日」という活動で、香川県の小学校の校長先生・竹下和男さんがはじめた取り組みでした。小学生たちが、誰の手助けも受けずに一人で弁当を作る。ただそれだけで、どんな人の気持ちかわかるようになり、たくましく、優しくなっていくと聞いたんです。それで竹下さんが書かれた本を読んでみたのですが、そこに書かれていた校長先生の言葉や生徒の作文を読んでいたら涙がポロポロこぼれてきて、この感

動は、学生たちにも味わってほしいと感じました。

子どもたちは弁当を作ることで、それまで見えていなかった、母親や給食を作ってくれている人たちの大変な苦労に気付くんです。そして、自分がいかにいろいろな人に支えられて生きていくかを知り、自ずと感謝の気持ちを持つようになり、ますます、田畑で仕事をする人を見て、同じような気持ちを抱けるようになるんですね。

石川 「弁当の日」をきっかけに、子どもたちがいるような方向に目を向けることができるようになる、ということですか。

比良松 そうです。「子どもに魚を与えるのではなく、釣り針を与えなさい」と言う言葉があります。まさにそう。結果を得るまでが、まさにそう。結果を得るまでのプロセスにも大切なものがたくさんある。知識を詰め込むだけでなく、実際に体験することも大

事なんだと。これは今の大学生に對しても言えることだと思います。

命のつながりを作り、おいしい野菜を育てる

石川 ところで、野菜の作り方の研究も進められているようですね。

比良松 はい。「野菜は作り方で味が変わる」ことを提唱されている吉田俊道さんの講演会に参加したのがきっかけです。吉田さんは、同じ九州大学農学部出身の方ですが、もっと人や環境にやさしい野菜作りができないかと無農薬・無化

比良松 農業試験場にいた時代は、福岡県産米の「夢つくし」の品種改良など、地域ブランドを作るプロジェクトに携わっていました。かいつまんで言えば、「コシヒカリ」より味が良く育てやすいお米を作るような研究です。でも、もともと「コシヒカリ」は味が良いわけで、90点のものを91点とか92点にするような改良を繰り返しても、農業の根本的な問題の解決にはならないんじゃないかという疑問を持つようになりました。将来の農業につながる基礎研究は、すぐに結果は得られません。でも、大切な研究です。そのような研究は、

大学の方ができるのかもしれないと思っていました。そこへタイミング良く、九大からの誘いもあり、大学に戻ることにしたんです。

子どもたちの生きる力を育む「弁当の日」との出会い

石川 教育にも興味をお持ちになっていたのですか？

比良松 いいえ、最初は教育より研究に興味がありました。教育に興味を持ったきっかけは4年前。研究室の女子学生が、弁当を作ってくれて一緒に食べようと誘ってくれたんです。それは「弁当の日」という活動で、香川県の小学校の校長先生・竹下和男さんがはじめた取り組みでした。小学生たちが、誰の手助けも受けずに一人で弁当を作る。ただそれだけで、どんな人の気持ちかわかるようになり、たくましく、優しくなっていくと聞いたんです。それで竹下さんが書かれた本を読んでみたのですが、そこに書かれていた校長先生の言葉や生徒の作文を読んでいたら涙がポロポロこぼれてきて、この感

動は、学生たちにも味わってほしいと感じました。

子どもたちは弁当を作ることで、それまで見えていなかった、母親や給食を作ってくれている人たちの大変な苦労に気付くんです。そして、自分がいかにいろいろな人に支えられて生きていくかを知り、自ずと感謝の気持ちを持つようになり、ますます、田畑で仕事をする人を見て、同じような気持ちを抱けるようになるんですね。

石川 「弁当の日」をきっかけに、子どもたちがいるような方向に目を向けることができるようになる、ということですか。

比良松 そうです。「子どもに魚を与えるのではなく、釣り針を与えなさい」と言う言葉があります。まさにそう。結果を得るまでが、まさにそう。結果を得るまでのプロセスにも大切なものがたくさんある。知識を詰め込むだけでなく、実際に体験することも大



命のつながりを伝えることが、私の使命。

「フロントランナー」は、九州大学の研究の最前線をインタビューで紹介するシリーズです。シリーズ第24回目は、農学研究院の比良松道一助教に、芸術工学研究院の石川幸二教授が聞きます。

食育や環境保全型農業に関する研究を推進。

農学研究院 環境農学部門 助教 比良松 道一
ひらまつ みちかず

聞き手 芸術工学研究院 石川 幸二 教授

農業の根本的な問題解決につながる研究をしたかった

石川 農学を研究しようと思われた理由をお聞かせいただけますか。

比良松 最初から農学を研究しようとは思っていませんでした。子どもの頃から生き物が好きだったので、動物学を学ぼうと思っていました。それで、進むべき大学を考えていたら、高校の先生から九大の農学部で動物学を専門に研究できる場所があると聞いて、本学に進学することに決めました。

石川 それで、どうして園芸学の方へ進むことになったのですか。

比良松 入学当初は動物学を学ぶつもりでいたのですが、大学で様々なことを学んでいるうちに、食の世界に興味を持つようになったんです。特にワインに惹かれて、その原料となるブドウを研究したいと思うようになりました。幸い、教養課程を終えて3年生になるまでの間に、段階的に専門を決めればよかったので、園芸学の方へ進むことにしたんです。

石川 卒業後は、農業試験場に勤めていらつしゃいますね。その後、また大学に戻られたのは、どのような理由からですか。

Profile

比良松 道一 助教 プロフィール

1989年 九州大学農学部卒業
1991年 九州大学大学院農学学術研究科農学専攻修士課程修了
1991年 福岡県農業総合試験場豊前分場技師
1993年 九州大学農学部附属農場助手
2000年 九州大学大学院農学研究院植物資源科学部門助手
2007年 博士(農学)
2007年 九州大学大学院農学研究院植物資源科学部門助教
現在に至る

米を作っても余るようじゃダメ。買う人がいなければ農業は成立しません。私たちは、農業をしなくても消費者として農業を支えることができるんですよ。今、私は、それを行動に起こしませんかと学生たちに問いかけています。買える消費者になってくださいと。
石川 確かにそうですね。先生はその後、日本の農業のために、どんなことを学生に教えていきたいと考えられていますか。
比良松 私にとって研究は言葉なん

です。最初は、大好きな生き物と対話するために研究しているんだと思っていました。その研究と「弁当の日」や野菜作りの活動を通して、命とのつながりの中でしか私たちは生きていけないということを実感してから、この謙虚な気持ちを学生に伝えていくことが、私の使命のように感じるようになりました。
石川 そういった活動が、大学生たちに影響を与えているなど思われることがありますか。
比良松 たくさんありますよ。例えば、大学生の「弁当の日」は、おかずを一品持ち寄る形式をとっているのですが、弁当を作る時、学生が一番何を考えますか。
石川 味ですか。
比良松 そう思うでしょう。でも違うんです。彼らは、自分の作ったおかずを、みんなが残さず食べてくれるかというのを一番気にするんです。学生は作った経験がほとんどないから自信がない。自分

はおいしいと思って、他の人がべ比べをさせているんですよ。
石川 これはおいしい。香りと甘みが全然違いますね。
比良松 ジュースにするのもつわりかけただけなんです。飲んでみてください。
石川 うわあ、これも甘いですね。いったいどんな方法で、このような野菜を作られているのですか。
比良松 化学肥料を使うとどうしても、苦くなったり甘みが乗らなくなったりします。それより、命だつたものを土の中に戻してあげた方がいい。具体的には、微生物を増やすために給食センターなどに出る生ゴミを細かく砕いて、土の中に混ぜ込んでいます。土と混ぜると2週間位で完全に生ゴミがなくなります。生ゴミを微生物の力で発酵分解させて微生物を増やし、増えた微生物と共生させながら植物を育てるという作り方です。生き物は環境に依存して生きているので、自分のまわりにある環境要素はできる限り自分のために使おうとします。だから、育つ環境が変われば、病害虫に対する抵抗力や作物の味が変わる。こうして命のつながりを保ちながら営む農業は、自然の生態系と調和し



インタビューを終え、(左)石川教授、(右)比良松助教

おいしいと思ってくれる保証がないから不安なんです。だから、自分の弁当箱が空になった時、本当にうれしかったと言います。あの学生は、「母親にこれまでずっと食事を作ってもらっていたけれど、今日のはおいしくなかったなどと、文句ばかり言っていたことを反省しました。今日、母親に謝ろうと思います」と感想文に書いていました。親への感謝の気持ちが自然に生まれたんですね。その上、こんなにみんな喜んでくれるんだつたら、もっと喜ばせたい、次回もつとがらぼうとういう気持ちも湧いてきます。
他の人を喜ばせる力を「他喜力(たきりよく)」と言いますが、人が幸せになるために一番大切な力だと言われています。それは、彼らが社会人になった時に、一番発揮しなければならぬ力なんじゃないかと思うんです。学生たちは、弁当作りを通して、そういった生きる力を養っているんだと思いますよ。
誰かの役に立とうとする使命感を持ってほしい
石川 最後に、九州大学の学生の

学肥料による野菜作りを実践されています。
講演会に参加した時、吉田さんが作られた人参を、保育園児たちが生のままバリバリ食べるのを見てこれはすごいと思いました。人参が甘いから、人参嫌いの子どもたちも食べることができるようです。吉田さんは、野菜そのものも生き物で、野菜がそのパワーをフルに発揮できる元気な状態であれば、害虫も寄って来ないと言われます。化学肥料を与えても、サプリメントみたいに主要な栄養素だけを抜き出して、野菜に食べさせているようなものだから、ひ弱な野菜しか育たない。だから、どうしても農薬が必要になる。



が育っている人参です。どうぞ生で食べてみてください。比較できるように、スーパーで買った人参も持ってきました。こうして授業でも、学生たちに食

割が大きいと考えています。よく学生たちに「農業を支えるのは誰ですか」と訊くんです。彼らのほとんどは、農家とかお百姓さんと答えるんですが、農業に携わる人は、日本全人口のわずか3%しかいない。3%の人間だけで日本の農業を支えることは困難です。結局、



それよりも、植物と土の中の微生物との良好な共生関係を維持する方が、元気な野菜がすくすく育つんです。
石川 先生は、その理論に則った野菜作りを研究されているんですね。
比良松 はい。研究はまだ始まったばかりですが、これは、その理論を実証するために私が育てている人参です。どうぞ生で食べてみてください。比較できるように、スーパーで買った人参も持ってきました。こうして授業でも、学生たちに食

を食べている人参です。どうぞ生で食べてみてください。比較できるように、スーパーで買った人参も持ってきました。こうして授業でも、学生たちに食

ていて、これまでの環境を守ることもなるはず。 **農業をしなくても消費者として農業を支えられる**
石川 最近、TPP(環太平洋戦略的経済連携協定)に参加して関税を撤廃しようとする動きもあります。先生は、日本の農業の将来をどのように見ていらっしゃいますか。
比良松 消費者の農業に対する役





新しき
挑戦者たち

比較社会文化学府
修士課程 2年

Tatsuya Ide

井手 竜也さん

九州大学で学び、目指す分野を究めようとする次世代のプロフェッショナルを紹介합니다。今回は、伊都キャンパスの「生物多様性保全ゾーン」に生息するタマバチの一種が新種であることを発見し、2010年11月、アメリカの権威ある昆虫学会誌で論文を発表した若手研究者にお話を伺います。



井手達也さん(左)と和智伸是さん(右)



あくなき追求心が、
新種の発見を生んだ。



担当教授より

比較社会文化学府
あべ よしひさ
阿部 芳久教授

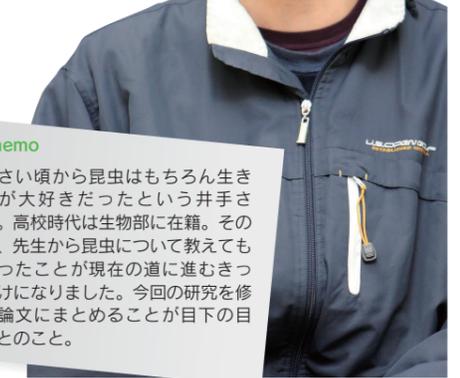
研究への決意は固くとても真摯。

井手くんは宮崎大学の出身、和智くんも他の学府に所属しながら私の研究室に来てくれているので、2人ともタマバチの研究への決意が固く、姿勢も真摯です。それが新種の発見という大きな成果に結びついたと思っています。論文や学会発表用のスライドなど、厳しく指導していますがめげません。打たれ強いですね(笑)。でも、これは研究者として重要な資質です。権威ある雑誌などで論文を発表するために投稿すると、世界中の専門

家が査読するので、かなりシビアなコメントが返ってきます。それにめけては、研究者としてやっていけませんから。今までアカガシ亜属に虫こぶを作るハチは命名されたり記載されたりしていなかったため、今回の研究に刺激を受けて、今後、アジアに潜在的に生息しているタマバチが明らかにされていくのではないかと考えています。今後も幅広い分野の知識を身に付けて、国際的に評価される論文を発表して欲しいですね。

井手竜也さん DATA

- 長崎県立長崎西高等学校
- 宮崎大学 農学部
- 九州大学 大学院
- 比較社会文化学府 修士課程



memo
小さい頃から昆虫はもちろん生き物が好きだったという井手さん。高校時代は生物部に在籍。その時、先生から昆虫について教えてもらったことが現在の道に進むきっかけになりました。今回の研究を修士論文にまとめることが目下の目標とのこと。

九州大学の関連 WEB サイトへ
九州大学 比較社会 Go
<http://www.scs.kyusyu-u.ac.jp/>

地道な研究作業も、好きだから続けられる。
今後は、コナラ亜属に虫こぶを作るタマバチも研究し、アジア全体のタマバチの研究を深めたいと話します。

「研究は地道な作業が多いです。それでも続けられるのは、好きな昆虫を追いかけているから。だから、皆さんも漠然とでも興味を持つものがあれば、チャレンジすべきです。それが大きな発見につながることもあると思います」



※「虫こぶ」とは、昆虫の刺激によって植物の一部が膨らんだ構造のこと。「コール」と呼ばれる。

タマバチの生態に魅せられて
本学の阿部教授に師事。

なんとって、和智さんの存在は大きかったと言います。
また、タマバチと一口に言っても、1000種以上のハチを分類するのは大変です。井手さんたちは、個人の研究を得意分野に絞り込み、お互いの成果を擦り合わせながら、効率的に研究を進めていきました。
「同じ虫を研究している仲間で見え出し合うので、確実性も高まります。共同研究のメリットが成果につながったんだと思います」

共同研究で確実性を高め、
効率的に研究を進める。

そんな井手さんを支えたのが、同じ共同研究グループに所属する和智伸是さんです。和智さんは、博士課程一貫制の4年生。システム生命科学府に籍を置きながら、阿部教授の下で研究を進めています。
学部で、全く違う研究をしていた井手さんは、大学院に進んだ当初は、基礎的な知識の習得から始めなければなりませんでした。そんな井手さん

新種のタマバチを発見。
米国・昆虫学会誌で発表

2010年、九州大学・伊都キャンパスの「生物多様性保全ゾーン」で新種のタマバチが発見されました。
発見したのは、比較社会文化学府の阿部芳久教授の共同研究グループ。その中心となって研究を進めたのが、比較社会文化学府修士課程2年の井手竜也さんです。井手さんがまとめた論文は、権威あるアメリカの昆虫学会誌で発表されました。
タマバチは、体長5ミリ以下の小さなハチで、植物に「虫こぶ」を作るのが特徴です。これまで、落葉性のコナラ亜属の植物を寄主とする多くの種が、アメリカやヨーロッパから、少数の種がアジアから知られていました。しかし、今回、井手さんたちが発見した新種のタマバチは、常緑性のアカガシ亜属を寄主としています。アカガシ亜属はアジアだけに分布する植物であり、今回の発見は、今後、アジア地域のタマバチの研究に寄与するものと考えられています。

井手さんは、宮崎大学でコナガの研究をしていましたが、タマバチの生態のおもしろさに惹かれ、本学の比較社会文化学府へ進学。阿部教授の下で指導を受けています。
新種のタマバチの論文を書き上げたのは修士2年の春。約1年という短い期間で研究成果を出しましたが、それまでの苦労も多かったとのこと。
「ハチが出てくる寸前の虫こぶを採取し、その成虫を羽化させ、新種のハチを得ようとしたのですが、虫こぶを採取する時期が早過ぎても遅すぎてもいけないし、採取しても虫こぶの湿度管理が難しいことなどから、なかなか目的のハチを得られませんでした」

平成22年度筑後地区九大同窓会開催

筑後地区九大同窓会が平成22年11月6日(土)久留米市プリチストンクラブにて開催されました。出席者は会員70名、来賓として大学から落合英俊理事・副学長、ありあけ九大会から泉会長、鬼塚幹事にご出席いただきました。

当日は総会に先立ち、(株)プリチストンのご厚意により久留米工場を見学、日本におけるゴム産業発展の歴史や様々なタイヤが生産される様子を勉強しました。



講演に立つ福山先生

になりました。また九大の歴史や医学部の現状について映像で紹介していただきました。

引き続き、久留米市新古賀病院長・福山尚哉先生(昭45・医)に狭心症の診断と治療について特別講演をしていただきました。コンピュータ画像による最新の診断や治療、予防のお話は大変参考



引き続き、総会では野田会長(昭25・経)の挨拶に続き、落合理事・副学長から大学の現状について詳しいご説明を頂き、大変参考になりました。来賓、公職者紹介、会計報告等の後、山下辰雄さん(昭21・工)の首頭による乾杯で懇親会に入り、楽しいひと時を過ごしました。余興として幾度も日本一の栄誉に輝いたプリチストン吹奏楽部のOBの皆さんによる見事な演奏が披露され、最後に野田会長の指導で久留米総踊り、出席者全員による学生歌「松原に」の合唱など盛会のうちに無事終了しました。

筑後地区九大同窓会副会長 福田洋一(昭和33年 経済学部卒)

筑波博朋会の総会開催

筑波博朋会は九大同窓会筑波支部の性格をもち、約30年前に結成され、現在、つくば研究学園都市及びその近郊に勤務する同窓生を中心に254名が所属しています。会員



の多くは国や民間の研究者や大学教員及びそれらのOBです。

毎年、11月下旬の土曜日に総会を開催しており、今回も11月27日(土)ホテルグランド東雲にて、来賓として九大の落合英俊理事・副学長と吉村淳農学研究院院長を招き、約25名の会員の出席のもとにぎやかに開催しました。総会では、落合理事と吉村院長から、キャンパス移転の状況など母校の学部、研究院の近況や活躍の様子をご紹介いただき、その内容に多くの同窓生は改めて懐かしさと母校愛を感じたようでした。

引き続き、梶原敏宏氏(農学部昭和27年卒)の御発声による乾杯で懇親会へと移りました。懇親会では、来賓を囲み身近な職場の出来事から日本の科学技術を取り巻く状況まで幅広い話題で歓談が続き、筑波大学の伊藤和幸さんによる日本舞踊が会を一段と盛り上げてくれました。最後には、本会恒例の全員参加ビンゴゲームで数々の豪華景品を競いました。締めくくりは、参加者で最年少の中央農業総合研究センター！ポストクの梅林利弘氏による博多一本締めで会を終えました。

引き続き、梶原敏宏氏(農学部昭和27年卒)の御発声による乾杯で懇親会へと移りました。懇親会では、来賓を囲み身近な職場の出来事から日本の科学技術を取り巻く状況まで幅広い話題で歓談が続き、筑波大学の伊藤和幸さんによる日本舞踊が会を一段と盛り上げてくれました。最後には、本会恒例の全員参加ビンゴゲームで数々の豪華景品を競いました。締めくくりは、参加者で最年少の中央農業総合研究センター！ポストクの梅林利弘氏による博多一本締めで会を終えました。

つくば研究学園都市では、様々な学部の同窓生が働いています。今後、より多くの同窓生が積極的に参加し、交流を深められるような場となるよう活動を続けたいと思っています。皆様のご協力をお願いします。



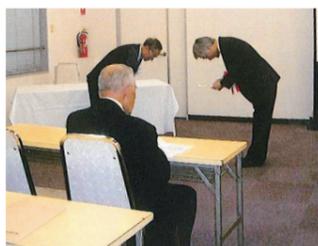
筑波博朋会幹事長 安中正実(昭和49年 農学部卒)

ありあけ九大会——定期総会・講演会ならびに九大白周年記念事業への寄附金贈呈式

大牟田発、平成22年11月13日(土)ありあけ九大会(泉博士会長 昭39・工)の講演会が総会に続いて開かれました。講師の占部賢志(九大院卒 太宰府高教諭)氏から「一人からの教育再建」と題して、江戸時代後半の私塾事情を話しながら今こそ一騎当千の気持ちを持った人材を育成するしかないといふ九大会への期待の深さを話されました。

そして今回、わが会は設立十四回を記念して、小規模ながら学部の垣根を越えた全学的地域同窓会の草分けとして、九大白周年事業に対して寄附金を贈呈し、他同窓会に負けず劣らず意気の崇さを示そうと会員一同心に期して贈呈式を行いました。式典には落合英俊理事・副学長、竹吉正志朗社会連携課長をお迎えし、式典を通して会員の気持ち

を伝えることができた。お礼のご挨拶で大学の現状と目前にせまった九



寄付金贈呈式の様子



女性演奏家によるミニコンサート

大百周年記念事業のご報告をいただきました。7時から懇親会では西原みやま市長、植木大川市長の一口話を聞き、さらに筑後地区同

窓会長野田豊・副会長福田洋一氏のご挨拶を頂き、横倉顧問の乾杯で開宴となり、女性演奏家によるミニコンサートも始まり、そして今年設立されたゴルフ部会の表彰、さらに大学より頂きました九州大吟醸を笑飲し会も益々盛り上がりました。最後に蓮尾副会長から、皆様の健康と大学の更なる発展、百周年記念事業の成功を祈念し閉会しました。

今年ありあけ九大会(11月12日開催)は設立十五周年を迎えます。ぜひ有川総長をお迎えできればと切望しているところです。

ありあけ九大会事務局代表幹事 鬼塚賢慈(昭和44年 法学部卒)

百周年記念事業特別講座・第二期 「九大白100年 お宝大集合」 仙厓さんもおカイコさんも 全学から発掘

百周年記念事業の一環として、本学と朝日カルチャーセンター福岡教室との共催による特別講座(第二期)が、4月から第2・4土曜日の午後、箱崎キャンパスで開講されます。今回は百周年を記念して2月に発行される「九州大学百年の宝物」に因んだテーマです。

長い年月にわたる研究と教育と共に蓄積されてきた様々な分野の「お宝」について、本学関係教員を中心とした講師陣が分かりやすく解説をいたします。講座は一般市民を対象にしたもので、受講には事前の申し込みが必要となります(定員40人、有料)。詳細は左記までお問い合わせください。

■開講予定題目

- ① 「九大の和本と特殊文庫」
- ② 「九大の漢籍と特殊文庫―中国哲学研究の地平から」
- ③ 「九大の考古資料」
- ④ 「九大の古文書―楡垣文庫」
- ⑤ 「九大の炭鉱資料―旧石炭資料研究センター所蔵資料について」
- ⑥ 「身体・病氣・医療―九大の古医書について」
- ⑦ 「九大の理学資料―桑木文庫」
- ⑧ 「九大の古美術の保管と活用―中山森彦コレクションの仙厓作品」
- ⑨ 「九大のカイコ遺伝子資源―世界的財産の継承」
- ⑩ 「九大の昆虫標本コレクション」
- ⑪ 「九大フィルの歴史と活動史料」
- ⑫ 「九大の中国演劇資料―演文庫」

■お問い合わせ先

朝日カルチャーセンター福岡教室
電話(092) 43117751



さまざまな色と形の繭と絹糸

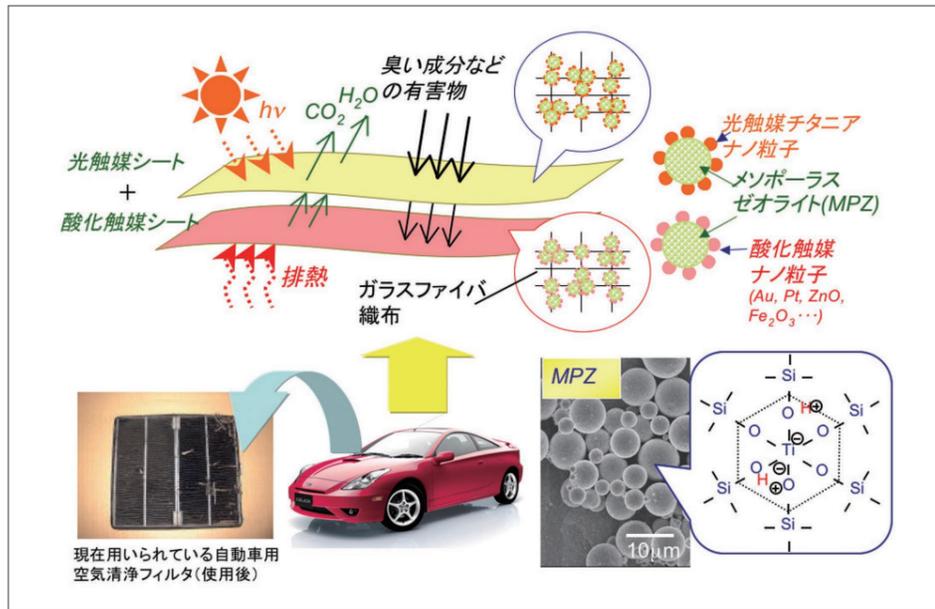


北條 純一教授

北條グループでは、シックハウス症候群の原因とされる揮発性有機物質などを効率良く取り除くためのフィルタ材料の開発に取り組んでいます。酸化チタン(TiO₂、チタニア)は優れた光触媒作用をもち、光を照射するだけで近くにある菌や有害物を分解することができます。この機能を

利用して、空気清浄機、水質浄化システム、防汚外壁材、抗菌衣類などさまざまな商品化もなされているので、既に身近で体験された人もいるかもしれません。酸化チタンの弱点は、有害物が近くにきたときにすぐには退治できないことです。そのため、酸化チタンの近くに、有害物を取り逃がさないように捕まえておく「相棒」が必要になります。我々が開発しているのは、酸化ケイ素(SiO₂、シリカ)に数ナノメートルの微細な孔を無数に含み、強い力で有害物を吸着する新物質で、メソポーラスゼオライト(MPZ)と名付けました。MPZは、吸着剤としてお菓子の袋の中などに入っているシリカゲルと比べて、3倍以上の比表面積(単位重さあたりの表面積)および吸着力をもちています。化学的なデザインにより光触媒チタニアとMPZを巧みに複合化すると優れた吸着/分解特性をもったフィルタ材料となります。

このプロジェクトでは、光触媒のみならず、酸化触媒(煤などの大きな粒子を低い温度で燃焼除去するための触媒)と組み合わせることで自動車の搭載することにより、小さい分子(アセトアルデヒド)から大きな粒子(花粉や煤)まで効率的に分解除去でき、しかも交換が不要となる未来型フィルタを目指しています。また、MPZ合成にはこれまで高価な原料が用いられてきましたが、本プロジェクトによって、安価な原料でも同等のMPZ合成に成功しました。これにより大量合成が可能となれば、自動車搭載用フィルタのみならず、一般家庭や病院など色々な場面で使える高機能吸着材料として展開できることを期待しています。



循環型社会・環境共生型社会を目指して
循環型社会システム工学研究センター



**百周年記念事業へ寄附された方は、
2月16日から3月15日までに確定申告をお忘れなく!**
～寄附金による税の軽減のお知らせ～

- ・所得税法による寄附金の所得控除により、所得税の軽減を受けることができます。
- ・自治体の条例で本学への寄附金が控除対象として指定されている場合、寄附された翌年の1月1日に当該自治体にお住まいの方は、個人住民税(都道府県民税及び市町村民税)の寄附金税額控除を受けることができます。
[本学への寄附金を対象として指定している主な自治体]
福岡県 福岡市 糸島市 みやま市 柳川市 八女市 篠栗町 須恵町
(その他の自治体については、各自治体の税務担当課へお問合せください。)
- ・百周年記念事業以外で九州大学へ寄附をされた場合でも、同様に税の軽減を受けることができます。

手続

寄附された翌年の3月15日までに所轄税務署で確定申告をしてください。

申告書に、寄附時に本学からお送りした「寄附金領収書」を添付してください。

※領収書を紛失された場合は、百周年記念事業推進課等へご相談ください。

インターネットで確定申告することもできます。(e-Tax)

※詳しくは国税庁ホームページ (<http://www.nta.go.jp/>) をご覧ください。

◆平成22年1月1日から平成22年12月31日までに寄附された方は、平成23年3月15日までに確定申告をしてください。

税の軽減額

(1)所得税の軽減額

$$(\text{寄附金額} - 2,000 \text{ 円}) \times \text{所得税の税率}$$

※1 ※2

(2)個人住民税の軽減額

(お住まいの自治体が条例で指定している場合に限り)

都道府県民税 (寄附金額 - 5,000 円) × 4%

※3

市町村民税 (寄附金額 - 5,000 円) × 6%

※3

(都道府県と市区町村の双方が指定している場合は、合計10%となります)

※1 寄附金の合計額が総所得金額等の40%を上回っている場合は総所得金額等の40%になります。

※2 所得税率は以下のとおりです。詳しくは国税庁ホームページをご覧ください。

| 課税される所得金額 | 税率 |
|------------------|-----|
| 195万円以下 | 5% |
| 195万円を超え330万円以下 | 10% |
| 330万円を超え695万円以下 | 20% |
| 695万円を超え900万円以下 | 23% |
| 900万円を超え1800万円以下 | 33% |
| 1800万円超 | 40% |

課税される所得金額とは、各種所得の金額の合計額から配偶者控除、生命保険料控除等の所得控除額を差し引いた額をいいます。

※3 寄附金の合計額が総所得金額等の30%を上回っている場合は総所得金額等の30%になります。

《参考》●国税庁ホームページ

<http://www.nta.go.jp>

<http://www.nta.go.jp/taxanswer/shotoku/1150.htm> (寄附金控除)

<http://www.nta.go.jp/taxanswer/shotoku/shoto318.htm> (所得額の計算と課税方法)

●福岡県ホームページ

<http://www.pref.fukuoka.lg.jp/f04/jyourei-kifukin.html> (条例により指定した寄附金)

中国教育部・中国大学
教職員訪日代表団

平成22年11月5日(金)、天津大学の張樹俊(シヤン シュウ、ジュイン)国際教育学院長を団長に9名の中国教育部・中国大学教職員が、吾郷副学長を表敬訪問しました。

今回の訪問は、「日中教育交流5カ年計画」事業の一つとして、文部科学省及び中国教育部が主催しているもので、昨年に引き続き文部科学省から本学へ受入れの依頼があったものです。

緒方総長特別補佐から本学のG30プロジェクトについて説明を行い、活発な意見交換が行われました。

また、表敬訪問後は伊都キャンパスを訪れ、伊都図書館及びドミトリイを見学されました。



前列左から3人目が張樹俊団長



張樹俊団長と記念品を交換する吾郷副学長

ドイツ・ホーエンハイム大学 学長

平成22年12月6日(月)、ホーエンハイム大学のハンス・ピーター・リービツヒ学長が、有川総長を表敬訪問しました。

今回、本学とホーエンハイム大学を含む日独タイの6大学が共同で取り組んでいる文部科学省所管の事業「大学教育の国際化加速プログラム」(アジア農学教育の国際化プラットフォーム)の最終会議のため来学の折、有川総長を訪れ、懇談しました。

今回の表敬訪問には、本学から緒方一夫総長特別補佐、吉村淳農学研究院長、横川洋名誉教授、ニーフ・アンドレアス農学研究院特任教授も同席し、日独の研究者・学生交流の活性化等への横川名誉教授の功績を称え、ホーエンハイム大学からも名誉教授の称号が付与されたこと等について、終始、穏やかに懇談が行われました。



左から4人目がハンス学長

ベトナム共産党訪日視察団

平成22年12月20日(月)、ベトナムの天然資源環境省グエン・リン・ゴック副大臣を団長に、20名のベトナム共産党訪日視察団が本学を訪問し、倉地理事、今泉理事と懇談しました。

今回の訪問は、ベトナムの幹部行政官の能力向上を目的とした政策の一環である「幹部行政官海外研修プログラム」によるもので、(財)日本国際協力センター(JICE)の仲介で、本学へ受入れの依頼があったものです。

視察団は、本学農学研究院における施設見学や留学生との懇談の後、倉地理事と今泉理事を訪れ、ベトナムの農業発展のため、今後も日本と協力していく必要性等について、活発な意見交換が行われました。



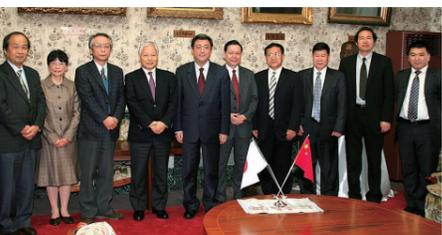
前列右から5人目がグエン・リン・ゴック副大臣

中国 華南師範大学 訪問団

平成22年12月14日(火)、華南師範大学の指導者である胡社軍(フー シャー ジュイン)氏を団長とする6名の訪問団が、本学を表敬訪問しました。

華南師範大学化学・環境学院と、本学大学院総合理工学研究院及び総合理工学府とが、平成22年3月29日に部局間交流協定を締結したことから、今回、筑紫キャンパスの研究施設見学を目的として来学の折、倉地理事と懇談しました。

今回の訪問には、本庄春雄総合理工学研究院長、田邊哲朗同研究院長、青木百合子同院教授が同席し、華南師範大学も本学と同様に様々な国から多くの留学生を受け入れていること等について、終始、穏やかに懇談が行われました。



写真左から5人目が胡社軍氏

韓国国際交流財団理事長

平成22年12月17日(金)、韓国国際交流財団の金炳局(キム・ヒョングク)理事長が、本学を表敬訪問しました。

金理事長は、本学韓国研究センター開設10周年記念行事の来賓として来学の折、倉地理事を訪れたもので、懇談の席には、韓国国際交流財団東京事務所副所長(チエ・ヒョンス)所長、駐福岡大韓民国総領事館の金基大(キム・ギデ)領事ら4名、本学からは韓国研究センターの松原孝俊センター長が同席し、日韓の大学間における学生交流等について、終始、活発な意見交換がなされました。



写真左から2人目が金炳局理事長

九大生が案内する

世界のキャンパス

ジョージア大学

交換留学先



アメリカ

工学部3年 鈴木 陽洋 (すずき はるひろ)

して、どのように国が発展していくのか、なぜ戦争は起きるのかなどということに勉強しました。専門外の内容についてもいくつもあり、授業についていくのは大変でしたが、担当の教授の語り口はとても面白く、また学生もとても熱心に授業に臨み、ときには熱い議論が交わされるなどとてもいきいきとした授業でした。この授業を通していかに自分の世界観が狭かったかということに気付かされ、世界全体を見渡す広い視野が必要だと痛感しました。

授業外では、留学中に出会った友達といろいろなところを旅行するのが良い思い出です。旅行といっても観光地だけでなく、友人の実家を訪れたり、大学一年時の夏に一月ホームステイしたときの家族に再会したりなど、交換留学をしていなければできなかった貴重な体験をすることができました。

留学が終了して早くも半年が過ぎてしまいましたが、今振り返ってみると本当に有意義で楽しい留学生活だったと思います。



(右左)学校の友人と(左端が筆者)
(上)アメフト試合の様子
(下)正門

「大きい大学だなあ。」これが僕が

2009年の8月にジョージア大学に到着したときに思ったことです。

広大なキャンパスを移動するには学内を無料で運行しているバス無しでは大変で、時間割を組むときには移

動時間を考える必要があります。

大学では、多種多様な授業が開講

されていて、僕は英語の授業と並行

して様々な授業を履修しました。中でも印象に残っているのは国際関係学。世界各地の国をモデルケースに

大学情報

ジョージア大学はジョージア州最古にして最大の総合大学で、1785年に創立された。伊都キャンパスの10倍近い広大なキャンパスに3万人以上の学生が在籍している。教育水準の高い大学であり、ビジネススクールやジャーナリズムスクールは特にレベルが高い。

留学プログラムが充実しており、世界各地の大学と交換留学協定を結んでいる。そのため数多くの留学生が在籍している。また世界各地に留学する学生も多く、その数は全米の大学で5位になるほどである。

他には、スポーツが盛んでレベルが高く、様々なチームが全米トップ10にランクインしている。特にアメリカンフットボールは人気があり、ホームゲームが行われる前日から大学構内は試合を観戦してきた人々によってまるでお祭りのような騒ぎになる。

また、キャンパスに接しているダウンタウンは規模こそ小さいものの様々なバーやレストランが存在し、特に週末の夜は大変賑わっている。



キャンパス内の様子

交換留学について詳しく知りたい方は、「九大生のための海外留学情報」(<http://www.isc.kyushu-u.ac.jp/intlweb/study/>)をご覧ください。過去の交換留学生による報告書も大学毎にたくさん掲載しています。

躍動

学生たちの活躍

「躍動—学生たちの活躍—」では、学生のサークル活動にスポットライトを当てて、その活動を紹介していきます。今回は、「九州大学馬術部」を紹介しましょう。

馬にまたがり、颯爽と、かつ力強く駆け抜ける姿は、まさにこのコーナーのタイトル「躍動」にぴったりの光景です。正装して大会に挑む姿は英国貴族を思わせます。彼らの華やかな姿の裏には馬と部員のみなさんとの意外な人間ドラマがありました。今回、馬について、馬術について馬術部前主将の小竹祥午さん(工学部3年)に語っていただきました。



前主将の小竹祥午さん

馬術部の紹介をお願いします。
私たちが馬術部は、箱崎と伊都の近くにある農場で馬を3頭ずつ飼っており、週6回練習しています。

また、練習以外でも、馬の世話のため、当番を決めて食事をさせたり、馬房の掃除に行っています。

大会ではどんなことを競うのか聞かせてください。

馬術競技は主に「障害」と「馬場」の2つがあります。「障害」は、ハードルのような障害物を決められた順番で飛ぶ競技で、正確さと速さを競います。「馬場」は、決められたコースを決められた走り方で走る競技で、技の確実性が求められます。

みなさん手綱さばきが鮮やかで、障害物を軽々飛び越えています。もともと馬術の経験はあるんですか？

いいえ。自分も含め、現在の部員は全員が初心者として入部しました。「何となくやってみたらいいから…」という理由で入部して、知識もゼロの状態から始めた人ばかりですが、先輩やコーチに教えてもらいながら練習することで、数カ月で試合に出られるくらいに上達していきます。といっても、最初は1人で乗ることはとても無理で、ま



ずは馬に慣れることから始まります。先輩に見てもらいながら、馬にロープをつけて一緒に歩くことから始まり、次第に馬に乗って歩いてみる、そして走ってみる…という風に段階を踏んで練習していきます。さらに、ただでさえ馬は高いのに、競技のためには、高さ1mくらいの障害物を飛び越えないといけないんです。これがなかなかうまくいかず失敗を重ねるのですが、練習のおかげで初めて成功したときはとても爽やかな気分でした。



他の競技との違いは、何といっても、生き物と一緒に競技をするということだと思いますが

そうですね。馬術は自分だけが頑張るのではなく、馬と信頼し合い、一緒に頑張るところ結果が出る競技なんです。技術だけを練習してもどうにもならない。それが馬術の難しさである

同時に楽しさであると思っています。付き合ってみてよくわかりましたが、馬は本当に賢くて、繊細です。乗る人や世話をする人の態度や気持ちにすぐ感じ取ってしまいます。だからこそ、まず自分たちから馬を信頼し、馬に心を聞いてもらわないといけません。そうして「人馬一体」となって競技に臨むのです。



馬の世話もしているんですね。

そうですね。食事や掃除といった馬の世話は部員が責任を持って引き受けています。病気になったときは獣医の先生を呼んで一緒に看病もしています。ずっと世話をしていると、餌の食べ具合をちよつと見ただけで、「今日は調子悪いのかな？大丈夫かな？」ってわかっちゃいます。大変だなと思うこともあります。その分、競技と一緒に頑張っている成績が出たときの喜びは大きいんです。きっと、馬の分の喜びも加わって2倍…いや、それ以上に倍増しているんだと思います。

まさに苦楽を共にしている戦友と言えますね。ところで、人間同士…と言いますか、部員の皆さんの雰囲気はどうですか？

部員は元気で明るい人が多いです。みんなそれぞれやっていたことがなかった馬術の世界に思い切つて飛び込んでみた…って人ばかりで、好奇心が旺盛な人が多いですね。怖いもの知らずといいますが、個性派と言いますか…。みんなが集まると、それはもう賑やかです。



個性派メンバーばかりの部の仲間も

そうですが、さらに馬術部は去年創部85周年を迎え、頼りになるOBの方がたくさんいます。また、伊都の農場では、馬術をされる一般の方とも知り合えます。馬術部に入っていないながらもこのように出会うことも無かったであろう方々とたくさん知り合うことができました。馬術部のおかげで大学生活が楽しくなり、人生が広がったのは間



最後に馬術部のアピールと今後の目標をお願いします。

違いありません。あと、「馬に朝ごはんをあげなくちゃ!!」という思いから、苦手な早起きを克服できたことや、高いレススノ料を払ってどこかで習うと考えたら部活として馬術ができるのはかなりお得ですよ。ということもアピールしておきますね(笑)。

馬術部の活動を通して、真剣な表情と、愛情あふれる表情の両方を見せてくれた部員の皆さん。それは馬も同じでした。お互いを信頼し合った仲間として認め合っているようです。九州大学馬術部は他の部より一足早く、5月に七大戦を迎えます。今年の舞台は北海道。たくさんの期待を背に、最南端から挑む、九大馬術部は、北の大地で人馬一体となった走りを見せ、活躍してくれることでしょう。



九州大学馬術部

■馬術部 Webサイト
<http://qdaibazyutu.web.fc2.com/index.html>

10月

有明海再生へ道しるべ 九大など沿岸5大学研究 (朝日 10/1)

九大大学院中国人留学生 西日本シティ銀行が採用 (朝日読売 日経 産経 10/1、6)

バイトと両立 日本代表 ラクロス 九大 山田あかり (朝日 10/1)

恋愛テーマ イムズで本の展覧会 目黒実 人間環境学大学院特任教授 (佐賀朝日 10/1、6)

九州大学国際コース14力国25人が入学 (西日本朝日 読売 10/1、5、6)

九大箱崎の跡地構想 検討委 福岡市設置へ (読売 10/2)

宇宙天気知ってる? 九大宙空環境研究センター (読売 10/2)

叙位叙勲 正四位瑞宝中級章 松尾文碩 名誉教授 (読売 10/2)

九州大学病院が国内初の交換生体腎移植 (毎日 読売 朝日 10/3、13)

一等地の利用 議論注目 九大箱崎跡構想 (読売 10/3)

オニヒトテ2000匹駆除 理学部附属天然草臨海実験所 野島哲雄 准教授 熊本 10/3

@九大研究室 溝越明 法学研究院客員教授 (西日本 10/4)

View 江戸の文芸、「俗」と「雅」兼ね備え 文化功労者 中野三敏 名誉教授 (朝日 11/1、2)

こう思う2010福岡市長選 対アジア20年前のまま 飯野祐三 名誉教授 (読売 11/2)

鉄道版スマートグリッドの可能性で九大が公開講座 (電波新聞 11/2)

災害想定した施設設置指摘 九大など調査団 (南日本 宮崎日日 日経 産経 11/3、4)

地道な功績たたえる 秋の叙勲 瑞宝中級章 村山幸人 名誉教授 (西日本 11/3)

「花時計」 九州大芸術工学部「イジリ」の森映画館 (西日本 11/4)

九大病院に入院中の患者 家族承諾脳死16例目 (読売 日経 宮崎日日 佐賀 11/4)

2キャンパス徒歩でつなぐ 箱崎→伊都 QUウォーク (読売 11/4)

環境ゲーム効果検証 産学官開発 福岡市と九州大学 (西日本 11/5)

ビタミンの発見 九大で100年記念し講座 (西日本 11/5)

佐々木克氏がエフエム福岡社長に就任 九大卒 (毎日 11/5)

九大大学院に新専攻 統合新領域学府にライブラリーサイエンス専攻 (西日本 日経 日刊工 11/5、16、18)

社会ビジネス、九大本格化 グラミン銀連携で成果 (日経 11/6)

熊本市長に現職幸山政史氏が当選 九大卒 (産経 朝日 西日本 11/8)

高樹のぶ子さんのSIA終了 (毎日 10/5)

中村滋延 芸術工学研究院教授 福岡市文化賞を受賞 (毎日 10/5)

科学ニッポン、若者よ続け 高校生向け 九大が講座 (西日本 10/7)

《連載》それでいいんだ大丈夫 坂本雅子「子ども」の村福岡副理事長 九大卒 (産経 10/7、22 全15回)

ガセリ菌SP株、欧州の学会で評価 九大など共同研究 (産経 10/8)

けい藻土使い微生物ろ過 九大、大型船へ搭載目指す (日経 産経 10/8)

スーダンとともに(全3回) 川原尚行 医師 九大卒 (西日本 10/8、10)

雪国まいたけ グラミン銀と合併 九州大も参加 (宇都日報 日経 毎日 西日本朝日 10/9、14)

地元食材活用 成功事例学ぶ 九大セミナー、鹿屋視察 (南日本 10/9)

B型肝炎 学生タッグ 九州大3年吉井華子さん (朝日 10/9)

九大伊都キャンパス開発影響? 海を渡ったイノシシ (西日本 10/9)

九大とホールがタッグ 院生企画で3公演 (毎日 10/9)

戸別所得補償制度 前田幸嗣 農学研究大学院准教授 (西日本 10/10)

九大 ネパールと研究始動 来日微生物・キノコ利用で (日経 11/8)

九州に新たな産業起こせ 有機EL安達千波矢 最先端有機光エレクトロニクス研究センター教授 (西日本 11/8)

@九大研究室 自治体「協働度」も採点 武井良範 法学研究院客員准教授 (西日本 11/8)

時評ー小説ー 松本常彦 比較社会文化研究院教授 (読売 11/9)

私のサポーター 有川節夫総長 (読売 11/9)

大宰府の木簡に労役記録 坂上康俊 人文科学研究教授が調査 (日経 朝日 西日本 11/10)

Signal 堀井伸浩 経済学研究院准教授 (産経 11/10)

九州大など3大学共同で木製品を作成 (西日本 11/11)

言わせて10福岡市長選 野々村淑子 人間環境学研究院准教授 (毎日 11/11)

須藤信行 医学研究院教授「乳幼児期の精神発達と腸内フローラ」 (科学 11/12)

《はなしの横丁》 篠栗九大の森に小学生在が案内板設置 (日経 11/12)

カンボジア政府と九大が学術協定 (産経 毎日 日刊工 11/12)

九大が3年連続ブランド力首位 (日経 11/12)

ウィルス殻構造を生成 松浦和則 工学研究院准教授 (西日本 産経 日経 産経 11/13、14、17)

九州・沖縄の大学出身の社長数 九大3位 (西日本 読売 10/14)

《聞きたい》アジア地域の環境問題 岡本正宏 農学研究大学院教授 (西日本 10/15)

九大に有機発光物拠点 来夏、最新の研究棟 (西日本 10/15)

福岡市が伊都キャンパスに産学連携拠点を増設計画 (日経 産経 10/15)

叙位叙勲 正四位 内藤亮爾 名誉教授が受章 (読売 10/16)

六本松に活 九大生らがまつり (読売 10/16)

開かれた「法科大学院」九大 松生光生 法科大学院長 (西日本 10/16)

九大田島跡地に中村学園グラウンド完成 (読売 10/17)

国勢調査で郵送 訪問制度に限界 国民の関心引く工夫を 濱砂敬郎 名誉教授 (日経 10/18)

《最良の理解者》 有川節夫 総長 (日経 10/18)

高樹のぶ子さん SIAの5年振り返る (毎日 10/18)

「直球曲球」富士通社長 山本正巳氏 九大卒 (日刊工 10/18)

医師不足 離職者に注目 九大病院 復帰プロジェクト (読売 10/19)

ガラス基板向け新研磨技術 土肥敏郎 工学研究院教授 (半導体産業 10/20)

九大 先端医療拠点を設置 研究から臨床まで (西日本 日経 読売 産経 日刊工 日経 産経 10/21、22)

福岡アジア都市研究所理事長 樗木武名名誉教授 交流活性化し光広げよ (西日本 11/14)

《患者を生きる》アトピー 古江増隆 医学研究院教授 (朝日 11/14)

衛星「いぶき」黄砂をキャッチ 九大などのチーム (毎日 11/15、16)

Signal 施光恒 比較社会文化研究院准教授 (産経 11/15)

「探究人」里海の大切さ、世界に訴え 柳哲雄 応用力学研究所教授 (朝日 11/16)

B型肝炎訴訟 解決への後押し 九大など福岡の学生ら企画 (朝日 11/16)

生きるヒント 江戸文化に 文化功労者 中野三敏 名誉教授 (読売 11/16)

普賢岳 平成噴火から20年 清水洋 理学研究院教授 (西日本 11/16)

糸島市民と九大留学生 長期交流へ ウェルカム事業本格開始 (西日本 11/17)

第69回日本脳神経外科学会学術総会福岡で開催 会長 佐々木富男 医学研究院教授 (読売 11/17)

大学 ICT推進協議会を発足 九大など (日刊工 11/17)

晩年の成果 モノベエンジニアリング社長 物部長順さんが九州大大学院博士課程を修了 (日刊工 11/17)

会津藩出身の物理学者 山川健次郎の銅像を九州大へ寄贈 伊都キャンパスに設置へ (読売 福島民友 河北新報 福島民放 西日本 11/18、25)

中国進出ノウハウ 短期経営講座を開講 九大ビジネススクール (日経 産経 10/22、25)

福祉の輪づくり運動 第4次計画を策定へ 副委員長に高野和良 人間環境学研究院准教授 (宇都日報 10/22)

九大院生企画「花」をテーマに宗像市青少年合唱団と共演 (西日本 10/22)

九大など福岡の8病院 治験計画 審査を一元化 (日経 毎日 日経 産経 10/23、29)

ミニ低気圧停滞 積乱雲次々発生「例のない大雨」九大専門家が分析 伊藤久徳 理学研究院教授ら (西日本 10/23)

子どもホスピスを訪ねて(上・下) 濱田裕子 医学部准教授 (西日本 10/25、11/1)

文化功労者に中野三敏 名誉教授 (読売 朝日 西日本 毎日 10/26、27)

九州大東アジア環境研究機構と人間文化研究機構総合地球環境学研究所が協定 (日経 10/26)

「九大の青春」移築 定番コンパ会場卒業生計画伊都へ (西日本 10/26)

△理科大好き!Vレアアース 福永純二 先端物質化学研究所教授 (西日本 10/26)

スクリーンはリサイクル古着 九大井尻寮手作り映画館 (西日本 10/26)

APEC石炭セミナーあす開幕 九電や九大も参加 (西日本 10/26)

仏エア・リキード社が九大に「水素」講座 (西日本 10/26)

「夕影」中野三敏 名誉教授 (読売 11/18)

九大が企業家育成機関設立 来春開講 (日経 日刊工 日経 産経 11/18、22、23)

九大伊都で新種のハチ 大学院生ら発見 (朝日 11/19)

独自素材「テアニン」摂取 月経前のイライラ改善 東洋新薬 九大と効果確認 (日経 産経 11/19)

「この人の一言」フリー・キュレター花田伸一さんへ九大卒 (読売 11/19)

《人脈記》 日本兵の母想う 中国の詩人 秋吉久紀夫 名誉教授 (朝日 11/20)

地域の魅力探ろう 九大生ら3人招待 農家民泊し意見交換 (宮崎日日 11/20)

「人物現在形」九州歴史資料館移転 西谷正 名誉教授 (西日本 11/20)

九大教育学部と糸島市教委連携協力 (西日本 毎日 11/20)

伊都キャンパスで九大祭 (西日本 11/21)

九大混声が銀賞 全日本合唱コンクール (朝日 11/21)

九州大男子学生寮「井尻寮」活性化へ アートを発信 (西日本 11/21)

九大大学院フランス人留学生「レイホ」重んじ、現在二段 (毎日 11/22)

新作能「松原桜」を企画 大学院生 庄司潤平さん (西日本 日経 佐賀 11/23、26、29、30、12/3)

いのち見詰め946句 元九大教授の 田代素人さん (西日本 11/23)

九大病院 人工心臓外れた重症患者が死亡 (読売 毎日 西日本 日経 朝日 産経 南日本 10/26、27)

やさしい経済学 今井亮一 准教授 (日経 10/27、28、11/1、8)

田中・県警本部長 九大で特別講演 (読売 朝日 10/27)

福岡に九大などの女子学生ユニット CDデビュー (南日本 10/27)

血液検査で脳梗塞診断 九大グループ 開発研究 (西日本 10/28)

△残暑△ 和本で分け入る江戸 中野三敏 名誉教授 (西日本 10/28)

血液検査で脳梗塞診断 九大グループ 開発研究 園孝成 九大病院講師 (西日本 10/28)

東芝ファイナンス社長に 原岡良明氏が就任へ九大卒 (日経 産経 日経 10/29)

きたやまおさむさん嘉穂劇場でコンサート (読売 10/29)

赤潮 アサリのエサに 山口水産センターと九大が試験 (毎日 10/31)

11月

「憂楽帳」中野三敏 名誉教授 (毎日 11/1)

地域に足跡 西日本文化賞2010年度受賞者 楠田哲也 名誉教授 (西日本 11/1、4)

少子化教育・エコにも奇与 野田進 法学研究院教授に聞く (西日本 11/1)

水素吸蔵ナノ合金開発 ロジウムと銀「結合」 京大 九大などパラジウム代替 (日刊工 11/23)

初代田川市長邸研究 2棟の特徴など説明 藤原恵洋 芸術工学研究院教授 (朝日 11/24)

平成新山 噴気温度変動なし 九大など山頂視察 (西日本 11/24)

現代ビジネスパートナーのための「健康管理」と「癒し」丸山マサ美 医学研究院講師 (日経 11/25)

「WEB」xメディアアーティスト 八谷和彦氏へ九大卒 (産経 11/25)

@九大研究室 対アジア 九州観光戦略は 九州観光推進機構事業本部長 大江英夫氏へ九大卒 (西日本 11/26)

沖ノ島 3D映像撮影 金大雄 芸術工学研究院准教授ら九大チーム (朝日 11/26)

九州大と九州地方整備局が協定 (山口、毎日、読売、宮崎日日、朝日、南日本、西日本 日経 産経 日経 産経 11/27)

片山恭一さん新刊へ九大卒 (読売 11/29)

「松原桜」新作能に 九大院生発案で実現 (日経 西日本 11/29、30)

遺伝子と治療効果関係判明 九大グループ学術誌掲載 (読売 11/30、12/5)

C型肝炎患者へ生体肝移植手術 九大グループ学術誌掲載 (読売 11/30)

左右の脳の違い 空間認知に必要 慶大・九大との共同研究 (日経 産経 11/30)

家計の困窮が才能ある受験生の進学行動に どれほど影響を与えているか

—— 2010年夏・長崎県における調査で正確な推定値を算出 ——

丸野俊一（理事・副学長）
渡辺哲司（高等教育開発推進センター准教授）
大津正知（学務部学務企画課専門員）

2010年夏現在の長崎県では、県外の主要大学へ進学できる学力をもつ高校3年生のうち3%が、家計の困窮のために大学進学そのものを諦めるかもしれないことが分かりました。また、その割合には地域差があり、長崎・佐世保の両市では2%前後、他の地域（主に離島、旧郡部）では5～6%でした。それらの数字は「ほぼ悉皆（しつぱい）」調査によって得られた、かなり正確なものであり、地域の実情を踏まえた現実的な対策につながることを期待されます。

背景 本学の「高校向け窓口」であるアドミッションセンターでは近年、地元九州で、高い学力・意欲をもつ高校生の中に家計の困窮を理由に県外の大学への進学をためらう生徒がいること、そのような生徒の割合は特に都市部を除く地域で大きいことを感知していました。しかし、それらを数量的に裏付けるデータや、県単位ほどの規模で集中的に調べた前例は見当たりませんでした。そこで、九大への入学者数が福岡県に次いで多く、離島が多い等の地理的特徴を有する長崎県をまず調べてみました。



方法 2000年以降に九州大学への進学が複数人あった長崎県内の27高校の教師に、国内の主要（目安として「旧帝大」レベルの）大学に進学できる学力をもっている3年生の数や、そのうち家計の困窮を主な理由として進学先を地元の大学に変えるかもしれない、もしくは大学進学自体を断念するかもしれない生徒数などを尋ねました。なお、その実施には長崎県教育庁のスタッフからご協力をいただきました。

意義 ●エピソードや風評などにも影響されつつ「ムード」的に知覚されてきた事象が裏付けられました。
●焦点を「主要大学」に絞ったことで、九州大学にとって直接的な参考となる情報が得られました。
●県単位の集中的な調査によって、広域のサンプリング調査では得られない正確さの数値が得られました。教師-生徒間の濃密な関係（地域特性の一つ）を活かした簡便な調査方法を提示することができました。
●結果に基づき、長崎県および九大（ひいては周辺地域や他大学）において、問題の正確な把握や、問題への冷静かつ現実的な対処が進むことが期待されます。

展開 2011年3月には、離島の現状をよりよく知るために五島（福江）を訪れ、現地の高校生や教員たちと交流する予定です。また、その後は、同様の調査を九州他県へも拡大して実施できないか可能性を探り、究極的には、九州にある九大らしい・九大ならではの手法で、経済支援にとどまらない総合的な地域の教育振興へとつなげていくことを目指します。

【用語解説】 悉皆調査—母集団を丸ごと調べること。母集団の一部を抽出して調べるサンプリング調査とは異なる。なお、本調査を「ほぼ悉皆」というのは、対象となった27高校の卒業生が、2000年以降に長崎県の高専から九州大学へ進学した人のうち92.2%を占めているため。

プレスリリース <http://www.kyushu-u.ac.jp/pressrelease/2010/2010-12-27-02.pdf>

高柳涼一教授が 理事・副学長に就任

平成23年1月1日付で、高柳涼一教授（医学研究院）が新理事・副学長に就任しました。



任期 平成23年1月1日～
平成24年12月31日

九州大学百周年記念行事のご案内

- 九州大学百周年記念講演会 第1回「和本リテラシーの回復を願って」
日時 平成23年3月1日（火）16:00～17:30
会場 箱崎理系地区中央図書館視聴覚ホール
講師 中野三敏名誉教授
- 九州大学創立百周年記念国際シンポジウム
日時 平成23年5月13日（金）9:00～17:00
会場 病院キャンパス 医学部百年講堂
- 初代総長胸像設置・除幕式
日時 平成23年5月13日（金）
会場 伊都キャンパス
- 九州大学創立百周年記念式典
日時 平成23年5月14日（土）13:00～
会場 アクロス福岡シンフォニーホール
サテライト会場 エルガーラ大ホール（アクロス福岡会場を中継）
- 九州大学創立百周年記念フォーラム
日時 平成23年5月14日（土）15:00～
会場 アクロス福岡シンフォニーホール
サテライト会場 エルガーラ大ホール（アクロス福岡会場を中継）
- 九州大学創立百周年記念祝賀会
日時 平成23年5月14日（土）18:00～
会場 ホテルオークラ福岡
- 写真で見る「九大百年」展
日時 平成23年5月14日（土）10:00～17:30
会場 エルガーラギャラリー・中ホール
- 九大100年まつり
日時 平成23年5月15日（日）10:00～16:30
会場 伊都キャンパス
- 九州大学創立百周年 QUウォーク
日時 平成23年5月15日（日）8:00～
スタート 天神中央公園 ゴール 伊都キャンパス
- 九州大学創立百周年記念コンサート
日時 平成23年5月22日（日）14:00～16:30
会場 アクロス福岡シンフォニーホール
- 九州大学創立百周年 学内施設公開
期間 平成23年5月～6月

編集後記

いよいよ今年、九大が創設100周年を迎えた。くしくも、古河鉱業が、米国の産業界で提唱されていた「セーフティ・ファースト」運動に感銘を受けて始めた「安全専一」を創始とする、我が国の産業界における安全運動の100周年となる。九大における学術研究や教育は、この100年の間に目覚ましい発展を遂げてきたが、安全衛生活動は如何であろうか。学生や教職員が安心して学習、研究、教育、業務などに従事できるよう、安全衛生面でも世界に誇れる大学であってほしいと願う。

編集委員 健康科学センター 准教授 入江 正洋

本学は、2011年1月1日をもって九州帝国大学としての創立から百周年を迎えました。100年前に思いをはせ、今年のお正月は感慨深いものがありました。この100年の間に、世の中は劇的に変化しました。自由競争と国際化が進み、私たちの生活は飛躍的に便利になりましたが、よく言われるように、環境破壊や人間関係の希薄化など、人類の存在を脅かすような問題にも直面しています。これからの100年、いや50年が、人類のみならず地球上の生物にとって幸せな未来となるためにも、大学の果たす役割はとて大さきいと感じています。

広報室長 福島 泰

（お詫びと訂正）
九大広報第72号の2頁、上段の右から9行目から10行目、「多方面に興味ある知識人を養成するのが総合大学の所謂」に文字の誤りがありました。正しくは次のとおりです。お詫びとして訂正いたします。「多方面に興味ある知識人を養成するのが総合大学の所以」

九大の最新情報は「九大広報」の定期購読で。

九州大学同窓会連合会では、九州大学の姿をご理解いただくため、同窓生や在学生のご家族の皆様をはじめ、広く一般の方々にも「九大広報」の定期購読をお願いしています。定期購読は年間六巻分（隔月発行）三千円でお受けいただけますので、ご希望の方は、同窓会連合会事務局までご連絡をお願いいたします。

九州大学同窓会連合会事務局

TEL.092-642-4328 FAX.092-642-2113
E-Mail sycdo-rengo@jimu.kyushu-u.ac.jp

